

創設の趣旨・目的

Outline and Characteristics of the University

今日の教育は、広く国民の大きな関心を集め、教育の制度や内容は大きく発展してきた。

しかし、その中心となる学校教育を担う教員に対しては、教育者としての使命感と人間愛に支えられた広い一般的教養、教育の理念・方法及び人間の成長や発達についての深い理解、教科に関する専門的学力、優れた教育技術など、専門職としての高度の資質能力が要求されている。

上越教育大学は、このような時代の要請にこたえて、主として初等中等教育教員に研究・研鑽の機会を提供することを趣旨とする大学院修士課程と、初等教育教員を養成する学部を持ち、学校教育に関する理論的・実践的な教育研究を推進する国立の教育大学として、昭和53年10月1日に設置された。

大学院は、学校教育研究科（修士課程）とし、主として初等中等教育の実践にかかわる諸科学の総合的・専門的研究を行うとともに、初等中等教育教員に高度の学習と研究の機会を与え、その理論的・実践的な能力の向上を図ることをねらいとしており、そのために、入学定員の3分の2程度は、初等中等教育における3年以上の教職経験を有する者を入学させることとしている。

学部は、学校教育学部とし、初等教育教員養成課程を置き、児童等の成長と発達に関する総合的な理解の上に、全教科・領域にわたる優れた指導能力を備えた初等教育教員を養成することを目的としており、人間の生涯を通ずる教育の基礎とされる初等教育と、これに携わる教員の養成の重要性にかんがみ、学生の人間形成についても重視することとしている。

また、教員養成系としては初めて、兵庫教育大学に設置された「大学院連合学校教育学研究科（博士課程）」は、本学、兵庫教育大学、岡山大学及び鳴門教育大学の4大学が、それぞれの大学院修士課程における実績の上に、連携協力して教育・研究組織を編成し、学校教育における教育活動や教科の教育に関する実践的研究を行い、それを踏まえた高度の研究・指導能力を備えた人材を育成することを目的としている。

Reflecting the fact that education is a matter of great concern among Japanese people today, there has been a marked development in educational systems and materials. Today's classroom teacher, the central figure in education, is expected to have a versatile array of qualities such as a high appreciation of culture supported by a sense of mission and humanity; a deep understanding of pedagogical ideas and methods as well as the processes of human growth and development; a specialized knowledge of subject areas; and excellent teaching techniques.

In order to meet these contemporary needs, Joetsu University of Education was established in 1978 as a national university which aims to promote the theoretical and practical studies of school education. It consists of the Graduate School of Education which is chiefly intended for in-service teachers and the College of Education which offers undergraduate courses in teacher training.

The Graduate School of Education (Master's Program) conducts comprehensive and specialized studies of various sciences chiefly involved in the theory and practice of elementary and secondary education. It also offers school teachers the opportunity of pursuing advanced research and improving their theoretical and practical abilities. For that purpose, approximately two-thirds of the admission capacity of the Graduate School of Education is allotted to the teachers who have at least three years of teaching experience.

The College of Education offers undergraduate courses which train students to have excellent teaching abilities in all the subject areas of elementary education. The course work also cultivates a comprehensive understanding of the processes of growth and development in children. Considering the importance of primary education as the starting-point for people's lifelong learning, special emphasis is placed on building character of the students who intend to become elementary school teachers.

In 1996 The Joint Graduate School in Science of School Education was opened at Hyogo University of Teacher Education as the first Ph.D. Program in the field of teacher training in Japan. Its educational and research system is organized on a cooperative arrangement among four universities, Joetsu, Hyogo, Okayama, and Naruto. Supported by the experiences and achievements of each university's Master's Program, the Joint Graduate School (Ph.D. Program) conducts practical research on educational activities and the teaching of subject areas, and thereby aims to train capable persons with high abilities of research and instruction.

平成17年度授業科目一覧（学校教育学部）（抜粋）

http://www.juen.ac.jp/contents/coe/syllabus/pdf/17gakubu_k.pdf

平成17年度 学校教育学部 開設授業科目

(注) 1 科目番号欄に示す番号は、次のとおりです。

1000～1999 標準履修年次 1年

2000～2999 標準履修年次 2年

3000～3999 標準履修年次 3年

4000～4999 標準履修年次 4年

2 授業科目欄に示す記号は、次のとおりです。

◎:必修科目 ○:選択必修科目 ▲:自由科目

□:幼児教育専修の必修科目(他の専修は選択科目)

△:幼児教育専修の選択必修科目(他の専修は選択科目)

3 単位欄に示す記号は、次のとおりです。

L:講義 S:演習 P:実験・実技・実習

4 担当教員欄の ☆は、複数担当の責任者を、[]は、非常勤講師を示します。

5 教室欄に示す記号は、次のとおりです。

講:講義棟・第2講義棟 人:人文棟 自:自然棟 実:実験棟

音:音楽棟 美:美術棟 体:体育棟

6 備考欄に示すグループは、次のとおりです。

1年次 A:A1・A2・A3・A4の各クラス

B:B1・B2・B3・B4の各クラス

C:C1・C2・C3・C4の各クラス

D:D1・D2・D3・D4の各クラス

2～4年 次 A:学校教育専修(学習臨床コース, 発達臨床コース)

B:教科・領域教育専修(言語系コース, 社会系コース)

C:教科・領域教育専修(自然系コース, 芸術系コース)

D:幼児教育専修, 教科・領域教育専修(生活・健康系コース)

<全専修・コース>

区 分	科目番号	授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	学 期	曜 日	時 限	教 室	備 考	
人 間 教 育 学 セ ミ ナ ー 人 間 教 育 学 実 践 的 人 間 関 連 科 目	1101	◎ 人間教育学セミナー(教職の意義)	S2		前	水	1	講堂・人104~107・201・203~207・215・604・音201・美術演習室・体205・講003	使用教室は別に掲示します。	
	2700	○ 総合演習(学校と食の教育)	S2	立屋敷		後	月	5	人106	
	2121	○ 総合演習(多文化社会論)	S2	☆北條・田島・角谷・下里	前		水	1	講302	
	2122	○ 総合演習(子どもの校外生活と地域父母組織)	S2							休講
	2123	○ 総合演習(子どもの心と教育)	S2	大山・鈴木(情)・丸山・☆木村・磯波・杉浦		後	金	3	講201	
	2124	○ 総合演習(ことばと社会)	S2	☆野村・中里・押木・平野(絹)・平野(七)・石濱	前		金	3	人204	
	2125	○ 総合演習(自然と人間)	S2	佐藤(芳)・未定		後	金	3	講302	
	2126	○ 総合演習(自然環境)	S2	天野・下村		後	金	4	人202	
	2127	○ 総合演習(芸術社会教育論)	S2	茂手木・風巻・太田		後	金	3	音101, 美410	
	1102	◎ 体験学習	P2	濁川・大悟法・川村・西山・中村(雅)・榊原・高石・立屋敷・天野・後藤・釜田・木村・()	前 後					不定期, ガイダンス実施
	2128	ボランティア体験	P1	大悟法・濁川・釜田	前 後					不定期, ガイダンス実施
	1103	◎ スポーツ実践	P2	未定・榊原・☆清水・土田	前		水	2	体育館他	A・Bグループ
	1103	◎ スポーツ実践	P2	未定・榊原・☆清水・土田	前		金	2	体育館他	A・Bグループ
	1104	◎ スポーツ実践	P2	未定・榊原・☆清水・土田	前		火	2	体育館他	C・Dグループ
	1104	◎ スポーツ実践	P2	未定・榊原・☆清水・土田	前		木	2	体育館他	C・Dグループ
	1105	マリンスポーツ	P1	☆清水・加藤(泰)・榊原	前					集中
	1106	スノースポーツ	P1	市川		後				集中
	1107	伝統スポーツ	P1	直原・大橋						休講
	1108	◎ 教育実地研究 I (観察・参加)	P1.5L0.5	濁川・我妻・河合・笠原・釜田						集中 9/12~9/16 2年次に継続
	2129	◎ 教育実地研究 I (観察・参加)	L0.5P1.5	大山・濁川・丸山	前		水	4	講201	A・Bグループ 9/26~9/30(実習) 1年次から継続 講義日は掲示する
	2130	◎ 教育実地研究 I (観察・参加)	L0.5P1.5	大山・濁川・丸山	前		水	4	講201	C・Dグループ 9/12~9/16(実習) 1年次から継続 講義日は掲示する
	1109	◎ コミュニケーション英語A I	P1	カルデンバック	前		火	2	人204	A1・A2クラス
	1110	◎ コミュニケーション英語A I	P1	前川	前		火	2	人105	A3・A4クラス
	1111	◎ コミュニケーション英語A I	P1	カルデンバック	前		木	2	人204	B1・B2クラス
	1112	◎ コミュニケーション英語A I	P1	大場(浩)	前		木	2	人205	B3・B4クラス
	1113	◎ コミュニケーション英語A I	P1	カルデンバック	前		水	2	人204	C1・C2クラス
	1114	◎ コミュニケーション英語A I	P1	加藤(雅)	前		水	2	人205	C3・C4クラス
	1115	◎ コミュニケーション英語A I	P1	カルデンバック	前		金	2	人204	D1・D2クラス

区 分	科目番号	授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	学 期	曜 日	時 限	教 室	備 考
人 間 教 育 学 関 連 科 目	1116	◎ コミュニケーション英語AⅠ	P1	齋藤(九)	前	金	2	人205	D3・D4クラス
	1117	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	石 濱	後	水	2	人205	A1・A2クラス
	1118	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	水	2	人204	A3・A4クラス
	1119	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	平野(絹)	後	木	2	人205	B1・B2クラス
	1120	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	木	2	人204	B3・B4クラス
	1121	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	未定	後	火	2	人205	C1・C2クラス
	1122	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	火	2	人204	C3・C4クラス
	1123	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	野地	後	金	1	人205	D1・D2クラス
	1124	◎ コミュニケーション英語AⅡ	P1	カルテンバック	後	金	1	人204	D3・D4クラス
	1125	◎ コミュニケーション英語BⅠ	P1	齋藤(九)	前	木	2	人207	Aグループ
	1126	◎ コミュニケーション英語BⅠ	P1	野地	前	火	2	人207	Bグループ
	1127	◎ コミュニケーション英語BⅠ	P1	石 濱	前	金	2	人207	Cグループ
	1128	◎ コミュニケーション英語BⅠ	P1	平野(絹)	前	水	2	人207	Dグループ
	1129	◎ コミュニケーション英語BⅡ	P1	未定	後	木	2	人207	Aグループ
	1130	◎ コミュニケーション英語BⅡ	P1	齋藤(九)	後	水	2	人207	Bグループ
	1131	◎ コミュニケーション英語BⅡ	P1	石 濱	後	金	1	人207	Cグループ
	1132	◎ コミュニケーション英語BⅡ	P1	加藤(雅)	後	火	2	人207	Dグループ
	2131	◎ コミュニケーション英語CⅠ	P1	大場(浩)	前	月	2	人205	Aグループ
	2132	◎ コミュニケーション英語CⅠ	P1	齋藤(九)	前	月	2	人206	Bグループ
	2133	◎ コミュニケーション英語CⅠ	P1	前川	前	月	2	人207	Cグループ
	2134	◎ コミュニケーション英語CⅠ	P1	野地	前	月	2	人208	Dグループ
	2135	◎ コミュニケーション英語CⅡ	P1	石 濱	後	火	1	人205	Aグループ
	2136	◎ コミュニケーション英語CⅡ	P1	加藤(雅)	後	火	1	人206	Bグループ
	2137	◎ コミュニケーション英語CⅡ	P1	平野(絹)	後	火	1	人207	Cグループ
	2138	◎ コミュニケーション英語CⅡ	P1	大場(浩)	後	火	1	人208	Dグループ
	1133	○ ドイツ語コミュニケーション基礎Ⅰ	S2	平野(七)	前	月	3	講302	A・Cグループ
	1134	○ ドイツ語コミュニケーション基礎Ⅰ	S2	平野(七)	前	月	4	講302	B・Dグループ
	1135	▲ ドイツ語コミュニケーション基礎Ⅱ	S2	平野(七)	後	金	2	人208	
	2139	▲ ドイツ語コミュニケーション応用Ⅰ	S2	平野(七)	前	木	5	人105	
	2140	▲ ドイツ語コミュニケーション応用Ⅱ	S2	平野(七)	後	木	4	人208	
	2141	○ 中国語・中国事情Ⅰ	S2	黎	前	月	1	講103	
	2142	▲ 中国語・中国事情Ⅱ	S2						休講
	1161	○ ロシア語コミュニケーション	S2	下里	前	木	5	人201	H17年度以後入学者 H16年度以前入学者
	2143	○ ロシア語コミュニケーション	S2	下里	前	木	5	人201	H16年度以前入学者
	2144	○ アメリカ事情	S2	鈴木(敏)	前	月	1	人208	
	2145	○ 韓国語コミュニケーション	S2						休講
	2146	○ 韓国文化論	S2						休講
	1162	○ ラテン語	S2	藤澤	前	月	1	人207	H17年度以後入学者 H16年度以前入学者
	2147	○ ラテン語	S2	藤澤	前	月	1	人207	H16年度以前入学者
	2148	○ 国際交流セミナー	S2	田島	後	木	2	講103	
	1136	日本語・日本事情Ⅰ	S2	田島	前	月	3	プレゼンテーション室	
	1137	日本語・日本事情Ⅱ	S2	田島	後	木	4	プレゼンテーション室	
基礎と教育	1138	▲ 海外教育研究	P2						
	1139	◎ 日本国憲法	L2	小田桐	後	火	3	講202	
	2149	○ 教育本質論	L2		前	金	3	講201	
基礎的人間形成科 目		基礎的人間形成科 目							

区 分	科目番号	授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	学 期	曜 日	時 限	教 室	備 考
人 間 形 成 科 目 基 礎 的 人 間 形 成 科 目 教 育 学 基 礎 理 論 基 礎 的 人 間 形 成 科 目 指 導 法 の 基 礎 理 論	2150	比較教育改革史	L2	増井	前	木	5	人204	
	2151	○ 比較教育学	L2	大前	前	月	3	講201	
	2152	発達臨床思想	L2		後	水	1	人206	
	2153	○ 教師・授業文化論	L2	安藤	後	月	3	講302	
	1160	障害児教育概論Ⅰ	L2	☆我妻・河合・笠原	前	金	4	講301	
	2701	障害児教育概論Ⅱ	L2	土谷・斎藤(一)・藤井	前	木	4	人104	
	2154	○ 教育心理学概論	L2	内藤	前	火	2	講302	
	2155	○ 発達心理学	L2	阿部(勲)	前	木	4	講201	
	2156	児童心理学	L2	阿部(勲)					休講
	2157	青年心理学	L2	井沢	前	火	3	人214	
	3111	学習心理学	L2	中山	後	水	2	人214	
	2158	幼児・障害児教育原理	L2	☆我妻・河合・笠原・杉浦	前	金	4	講301	一部集中(後期)
	2590	障害児保育	S2	藤原	前	月	1	人107	
	2159	○ 教育と法規	L2	若井	後	金	1	講201	
	2160	学校組織論	L2	西	前	火	3	人208	
	2161	教育社会学	L2	藤田	後	木	4	人107	
	4101	人権と教育行政	L2	若井	前	月	3	生徒指導総合演習室	
	2162	生涯学習概論A	L2	大前	前				集中
	2163	生涯学習概論B	L2	藤田	後	火	3	人205	
	2164	社会教育計画A	L2	[板垣]	前				集中
	2165	社会教育計画B	L2	[板垣]	後				集中
	2166	人権・同和教育	L2	若井	前	木	1	講301	
	1155	◎ 教育課程論(総合的学習を含む。)	L2	小林(恵)	後	木	4	講202	A・Bグループ H17年度以後入学者
	1156	◎ 教育課程論(総合的学習を含む。)	L2	小林(恵)	後	木	5	講202	C・Dグループ H17年度以後入学者
	2167	◎ 教育課程論(総合的学習を含む。)	L2	小林(恵)	前	水	1	講202	H16年度以前入学者用
	2120	◎ 教育課程論(総合的学習を含む。)	L2	小林(恵)	前	水	2	講202	H16年度以前入学者用 1限に履修できない
	2168	□ 幼児の教育課程論	L2	杉浦	前	木	3	講202	
	2169	◎ 道德の指導法	L2	林(泰)	後	木	1	講301	
	2170	◎ 教育実地研究Ⅳ(特別活動の指導法)	L2	石田(美)	前	水	3	講301	一部水5 再履修者は前期・後期に集中で実施
	2171	○ 教育方法学	L2		前				
	2172	○ 学力診断論	L2	田中(敏)	後	木	5	講301	
	3112	○ 教育工学	L2	南部	後			講202, 教育情報訓練室1・2	集中
	2173	△ 保育・音楽表現の指導法	S2	大山	後	火	3	講301	
	2174	△ 保育・造形表現の指導法	S2	松本(健)	後	火	2	美207	
	2175	□ 保育・言葉の指導法	S2	鈴木(情)	後	水	2	講201	
	2176	□ 保育・健康の指導法	S2	下村(義)	後	月	3	体育館・講202	
	2177	□ 保育・人間関係の指導法	S2	丸山	後	木	2	講302	
	2178	□ 保育・環境の指導法	S2	丸山	後	月	4	講302	
	2179	保育の心理と行動	S2	礪波	後	月	2	人207	

講座番号	講座名	科目番号	科目名	L	S	P	担当教員コード	担当教員氏名	複数	1年生	2年生	3年生	4年生	その他	合 計	開講学期	時間割1曜日	時間割1開始	時間割1終了	時間割2曜日	時間割2開始	時間割2終了
160	学習臨床講座	1101	人間教育学セミナー(教職の意義)		2		01528134	布川 和彦	他	167	0	0	0	24	191	前期	水	1				
160	学習臨床講座	1136	日本語・日本事情Ⅰ		2		07630069	田島 弘司		26	0	0	0	1	27	前期	月	3				
160	学習臨床講座	1137	日本語・日本事情Ⅱ		2		07630069	田島 弘司		25	0	0	0	0	25	後期	木	4				
160	学習臨床講座	1151	教育情報基礎演習		2		92103840	中野 靖夫		44	0	0	0	1	45	通期	月	4		月	4	
160	学習臨床講座	1153	教育情報基礎演習		2		01532275	高野 浩志		30	0	0	0	2	32	通期	集中					
160	学習臨床講座	1155	教育課程論(総合的学習を含む。)		2		82961415	小林 恵		83	0	0	0	35	118	後期	木	4				
160	学習臨床講座	1156	教育課程論(総合的学習を含む。)		2		82961415	小林 恵		84	0	0	0	28	112	後期	木	5				
160	学習臨床講座	2120	教育課程論(総合的学習を含む。)		2		82961415	小林 恵		0	105	1	0	13	119	前期	水	2				
160	学習臨床講座	2121	総合演習(多文化社会論)		2		01519525	北條 礼子	他	0	35	0	6	1	42	前期	水	1				
160	学習臨床講座	2128	ボランティア体験			1	37984806	大悟法 滋	他	0	23	13	0	0	36	通期	不定期					
160	学習臨床講座	2148	国際交流セミナー		2		07630069	田島 弘司		0	6	0	0	0	6	後期	木	2				
160	学習臨床講座	2150	比較教育改革史		2		14322706	増井 三夫		0	1	0	0	3	4	前期	木	5				
160	学習臨床講座	2167	教育課程論(総合的学習を含む。)		2		82961415	小林 恵		0	63	0	0	0	63	前期	水	1				
160	学習臨床講座	2174	保育・造形表現の指導法		2		88429425	松本 健義		0	40	12	8	6	66	後期	火	2				
160	学習臨床講座	2180	情報科学概論		2		92103840	中野 靖夫	他	0	168	0	2	0	170	前期	木	2				
160	学習臨床講座	2320	学習臨床開発論		2		01518616	西川 純		0	7	0	0	5	12	後期	月	4				
160	学習臨床講座	2325	理科と学習過程		2		01518616	西川 純		0	0	0	1	0	1	後期	金	1				
160	学習臨床講座	2328	情報教育演習		2		01532275	高野 浩志	他	0	4	1	0	0	5	後期	月	1				
160	学習臨床講座	2329	総合学習と体験学習		2		41251222	角谷 詩織		0	6	0	0	0	6	前期	火	1				
160	学習臨床講座	2454	比較教育改革史		2		14322706	増井 三夫		0	4	0	0	0	4	前期	木	5				
160	学習臨床講座	2455	学習場面観察基礎		2		01518616	西川 純	他	0	14	0	0	3	17	後期	金	2				
160	学習臨床講座	2456	理科学習過程論		2		01518616	西川 純		0	6	0	0	0	6	前期	金	3				
160	学習臨床講座	2459	野外体験演習		2		37984806	大悟法 滋		0	5	1	0	0	6	前期	火	4				
160	学習臨床講座	2460	文化体験演習		2		01515158	川村 知行	他	0	5	0	0	0	5	前期	月	5				
160	学習臨床講座	2462	国際交流体験演習		2		07630069	田島 弘司		0	6	0	0	0	6	前期	木	5				
160	学習臨床講座	2464	総合学習カリキュラム開発論		2		87047970	山崎 貞登		0	3	0	0	0	3	後期	火	2				
160	学習臨床講座	2465	地域社会環境と学校		2		41251222	角谷 詩織		0	3	0	0	0	3	後期	火	4				
160	学習臨床講座	2535	日本美術史論		2		01515158	川村 知行		0	7	1	1	0	9	後期	月	5				
160	学習臨床講座	2561	中等技術科指導法(基礎論)		2		87047970	山崎 貞登		0	3	2	0	2	7	前期	木	5				
160	学習臨床講座	2592	言語行為と意味生成		1	1	01534723	松本 修		0	15	4	3	2	24	後期	水	1				
160	学習臨床講座	2703	学習臨床入門		2		14322706	増井 三夫	他	0	28	0	0	0	28	前期	金	5				
160	学習臨床講座	2704	学習臨床概論A		2		14322706	増井 三夫	他	0	28	0	0	1	29	後期	金	4				
160	学習臨床講座	2705	学習臨床概論B		2		14322706	増井 三夫	他	0	28	0	0	1	29	後期	金	5				
160	学習臨床講座	2712	教育情報学演習		2		92103840	中野 靖夫		0	1	0	0	0	1	後期	月	5				
160	学習臨床講座	2901	博物館概論		2		37984806	大悟法 滋	他	0	10	2	1	3	16	前期	火	5				
160	学習臨床講座	3032	解析学と探究過程		1	1	01528134	布川 和彦	他	0	0	14	2	3	19	前期	火	5				
160	学習臨床講座	3458	教科・教材基礎論		2		82961415	小林 恵		0	0	5	0	0	5	後期	金	3				
160	学習臨床講座	3459	授業研究法		2		01542827	和井田 清司		0	0	3	0	0	3	後期	月	4				
160	学習臨床講座	3460	学習場面臨床学		2		88429425	松本 健義		0	0	11	0	1	12	前期	金	1				
160	学習臨床講座	3461	教育臨床演習Ⅰ		2		01518616	西川 純		0	0	11	1	0	12	後期	月	4				
160	学習臨床講座	3462	学習臨床カウンセリング基礎Ⅰ		2		38473946	中村 光一		0	0	11	1	1	13	後期	金	3				
160	学習臨床講座	3463	国語学習過程論		2		01534723	松本 修		0	0	7	1	2	10	後期	月	3				
160	学習臨床講座	3465	言語行為と意味生成		1	1	01534723	松本 修		0	0	1	5	0	6	後期	水	1				
160	学習臨床講座	3466	社会科学学習過程論		2		38347312	朝倉 啓爾		0	0	4	0	0	4	後期	月	2				
160	学習臨床講座	3470	数学学習過程論		2		01528134	布川 和彦	他	0	0	7	0	4	11	後期	火	5				
160	学習臨床講座	3473	解析学と探究過程		1	1	01528134	布川 和彦	他	0	0	2	1	0	3	前期	火	5				
160	学習臨床講座	3479	美術表現学習過程論		2		88429425	松本 健義		0	0	5	2	0	7	後期	火	3				
160	学習臨床講座	3495	国際教育概論		2		01519525	北條 礼子		0	0	9	0	0	9	後期	火	1				
160	学習臨床講座	3496	地域社会学習法		2		01515158	川村 知行		0	0	8	0	0	8	前期	火	5				
160	学習臨床講座	3497	地域文化学習論		2		01515158	川村 知行		0	0	7	0	0	7	後期	月	4				
160	学習臨床講座	3498	環境教育概論		2		01544847	藤岡 達也		0	0	7	1	0	8	後期	火	4				
160	学習臨床講座	3499	地域環境教育演習		2		01544847	藤岡 達也		0	0	7	0	0	7	前期	火	4				
160	学習臨床講座	3559	国語学習過程論		2		01534723	松本 修		0	0	1	0	0	1	後期	月	3				
160	学習臨床講座	3578	ヨーロッパ史認識論		2		14322706	増井 三夫		0	0	5	0	1	6	後期	金	2				
160	学習臨床講座	3674	中等技術科指導法(課程論)</																			

**理科野外観察指導法***Instruction of Field Observation*

科目番号	2726	学期	後期	曜日・時限	／月・5
標準履修学年	学部2年	単位	L2	履修方法	選択
専攻・コース	教室 実202				
科目区分	専門科目 専門科目 教科・領域教育専修 自然系コース 理科分野				
担当教員	中村 雅彦				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

●授業概要・目標

小・中学校の理科の教科書に登場する生物を対象に野外における観察方法、素材の提供、内容の指導法を教授する。採集と飼育を基本に対象とする生物の形態と生態を学び、学んだことをどのように教育現場に還元するか考察する。

●履修条件・注意事項

できるだけ野外にでて、身近な自然と生物を対象に講義を行なうので服装に注意。

●授業計画・内容

- 1 昆虫の採集方法と形態観察
- 2 昆虫の飼育と生態観察
- 3 土壌動物の採集方法
- 4 土壌動物の生態観察
- 5 地表性昆虫の採集方法と形態観察
- 6 ザリガニの採集方法と形態観察
- 7 ザリガニの飼育と生態観察
- 8 魚類の採集方法と形態観察
- 9 魚類の飼育と生態観察
- 10～11 鳥類の生態観察
- 11～13 カラスの食性分析と環境把握（食物連鎖）
- 14～15 死体の分解過程（腐食連鎖）

天候により講義の順番は変更する。

●成績評価の方法

レポート

●教科書・参考書



教育情報演習

Basic Seminar of Information and Communication Technology for Education

科目番号	1140	学期	通年	曜日・時限	金・3/金・3
標準履修学年	学部1年	単位	S4	履修方法	必修
専攻・コース	教室 教育情報訓練室2				
科目区分	相互コミュニケーション科目 情報				
担当教員	高野 浩志				
備考	平成16年度以前入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

● 授業概要・目標

教員としての基本的な情報機器の操作方法について習得し、情報機器を利用した教育の基本的なパターンを体験的に学ぶ。基本的操作方法として、文書作成（ワープロ）、作図、表計算、画像撮影（デジタルカメラ）、写真の取り込み（スキャナー）、文書の印刷（プリンター）、画像の印刷（カラープリンタ）、動画の記録（デジタルカメラ）等を取り上げる。また、インターネットを利用する技術として電子メールの読み書きと、ホームページの検索並びに作成の方法を習得する。前期は写真や表を入れたレポート作成と発表を課題とする。後期はテーマを班別に決定して調べ学習を行い、成果をホームページにまとめて発表する。総合的学習の時間において必要な情報収集、取材、整理、伝達、評価を体験的に学ぶ。さらに余裕があればテレビ会議を利用した他の機関との交流も行う。

● 履修条件・注意事項

この授業は、これから教師を目指す学生にとって必要な情報機器の操作技能と情報教育の基礎を学ぶ科目である。必修4単位の演習授業であるので、勤勉な態度で履修してほしい。

● 授業計画・内容

以下の予定で進めるが、多少の変更もありうるので、授業中のアナウンスに注意すること

前期――――

以下についての演習を15コマでおこなう。

1. 訓練室の利用方法。コンピュータの基本操作、キーボード練習。
2. 電子メール
3. ワープロ
4. 表計算
5. デジタルカメラ・スキャナー
6. プリンター

以上のスキルを利用し、課題に取り組みレポート作成をおこなう。

後期――――

以下についての演習を15コマでおこなう。

1. プレゼンソフトを利用したプレゼンテーション
2. ホームページ作成
3. 情報モラル

テーマ、課題等に対してWebサイトを作成する。

● 成績評価の方法

レポート、作品、口頭発表を総合的に評価する。演習科目であるから欠席は大きな減点の対象となる。

● 教科書・参考書

教材を配布する。参考資料については適時授業中に配布する。参考書は適時紹介する。

○上越教育大学ティーチング・アシスタント実施要項

(平成16年4月1日)
(学 長 裁 定)

上越教育大学ティーチング・アシスタント実施要項

(趣旨)

- 1 この要項は、大学院学校教育研究科（以下「大学院」という。）の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当を支給することにより、当該学生の処遇の改善に資するとともに、上越教育大学（以下「本学」という。）における教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図るため、必要な事項を定める。

(名称)

- 2 前項に規定する教育補助業務を行う者の名称は、ティーチング・アシスタントとする。

(職務内容)

- 3 ティーチング・アシスタントは、授業科目を担当する教員（以下「授業担当教員」という。）の指示に従い、本学の学部学生に対する演習、実験、実習等の教育補助業務を行うものとする。

(身分)

- 4 ティーチング・アシスタントの身分は、非常勤職員とする。

(任用条件)

- 5 ティーチング・アシスタントは、大学院の優秀な学生のうち、次の各号に掲げる者に該当するものから任用するものとする。ただし、現職教育のため任命権者の命により派遣された大学院学生は、除くものとする。

(1) 学業が優秀で、人格が円満であり、かつ、指導者としての適性を有する者

(2) 教員・研究者となることを希望しており、ティーチング・アシスタントとしての経験が役立つと思われる者

(実施計画)

- 6 学部主事は、授業担当教員からティーチング・アシスタントによる教育補助業務の実施の希望があった場合には、別記第1号様式のティーチング・アシスタント実施計画申請書を作成し、学長に提出するものとする。

(授業科目の選定)

- 7 教育補助業務を実施する授業科目の選定は、教務委員会が行う。

- 8 ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせる授業科目は、講義及び非常勤講師が担当する授業科目を除くものとする。

(任用計画)

- 9 学部主事は、申請した授業科目が、前項の規定により選定された場合には、別記第2号様式のティーチング・アシスタント任用計画申請書を作成し、学長に提出するものと

する。

- 10 ティーチング・アシスタントの選考は、教務委員会が行う。

(勤務時間)

- 11 ティーチング・アシスタントの勤務時間は、月40時間（週10時間程度）以内を標準とし、当該学生が受ける研究指導及び授業に支障が生じないように配慮するものとする。

(任用手続)

- 12 ティーチング・アシスタントの任用手続については、国立大学法人上越教育大学非常勤職員就業規程（平成16年規程第37号。以下「非常勤職員就業規程」という。）によるものとする。

(給与)

- 13 ティーチング・アシスタントの給与は、非常勤職員就業規程により取り扱うものとする。ただし、手当は時間給のみとし、他の給与は支給しないものとする。

(事前指導等)

- 14 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントに教育補助業務を行わせるに当たっては、次の各号に掲げる事項を実施するものとする。

(1) 事前における当該業務に関する適切なオリエンテーション

(2) 継続的かつ適切な指導助言

(3) ティーチング・アシスタントからの意見聴取等

(実施報告)

- 15 授業担当教員は、ティーチング・アシスタントの任用期間が終了したときは、速やかに任用したティーチング・アシスタントについて、別記第3号様式のティーチング・アシスタント実施報告書を学部主事を経て、学長に提出するものとする。

(兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科学生の取扱い)

- 16 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科の学生で、本学に配属となった者については、本学の学生とみなして、この要項を適用する。この場合において、第1項中「上越教育大学大学院学校教育研究科」とあるのは「兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科」と、第3項中「学部学生」とあるのは、「学部学生又は大学院修士課程学生」とする。

(事務の処理)

- 17 ティーチング・アシスタントに関する事務は、学務部教育支援課において処理する。

(その他)

- 18 この要項に定めるもののほか、ティーチング・アシスタントに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

以下 別記様式 添付省略

上越教育大学年次報告書

—第19集：平成15年度版—

上越教育大学

③ティーチング・アシスタント

授業科目名	担当教官	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名(修士課程)				
				専攻・コース	学籍番号	氏 名	任用期間	任用時間数
教育情報演習 A4・C1～3	中野靖夫	通年	月 4	学校教育専攻 学習臨床コース	155042L	本 間 大 輔	5月1日～ 3月31日	60時間
教育情報演習 B4・C4・D4	高野浩志	通年	金 3	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)	145525H	前 田 尊 昭	5月1日～ 3月31日	60時間
教育情報演習 A1～3	井上久祥	通年	木 1	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)	135520A	須 長 輝 夫	9月1日～ 3月31日	60時間
教育情報演習 D1～3	石川 真	通年	月 2 木 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)	145526L	前 川 瑞 代	5月1日～ 3月31日	60時間
教育情報演習 B1～3	大森康正	通年	金 4	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)	155518K	樺 澤 崇	5月1日～ 3月31日	60時間
体験学習 B	濁川明男外	不定期	土	教科・領域教育専攻 芸術系コース(美術)	145465L	井 上 貴 博	5月1日～ 3月31日	30時間
体験学習 D	西山保子外	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース(理科)	155413A	木 下 祐 香	5月1日～ 3月31日	30時間
体験学習 E	榊原 潔	不定期	土	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145504E	尾 臺 美 彰	5月1日～ 3月31日	30時間
体験学習 F	高石次郎	不定期	土	教科・領域教育専攻 芸術系コース(美術)	155458A	伊 藤 勇 夫	5月1日～ 3月31日	30時間
体験学習 G	立屋敷かおる外	不定期	土	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)	145534G	若 林 ちひろ	5月1日～ 3月31日	15時間
				教科・領域教育専攻 生活健康系コース(家庭)	145532L	三 膳 佑季子	5月1日～ 3月31日	15時間
体験学習 H	天野和孝外	不定期	土	教科・領域教育専攻 自然系コース(理科)	145410B	青 木 実	5月1日～ 3月31日	30時間
体験学習 I	後藤丹外	不定期	水 3～4	教科・領域教育専攻 芸術系コース(音楽)	145451L	曾 田 容 子	5月1日～ 3月31日	15時間
				教科・領域教育専攻 芸術系コース(音楽)	145453G	折 居 はるか	5月1日～ 3月31日	9時間
中国語・中国事情 I	黎 子椰	前	月 1	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(技術)	155518K	樺 澤 崇	5月1日～ 9月30日	30時間
韓国語コミュニケーション	植村幸生	前	月 1	学校教育専攻 学習臨床コース	155022F	申 明 宇	5月1日～ 9月30日	13時間
表現・<子ども> の活動 A B	酒井 創外	前	金 1～2	教科・領域教育専攻 芸術系コース(美術)	145475H	常 光 由香里	5月1日～ 9月30日	30時間
表現・<子ども> の活動 C D	酒井 創外	前	金 1～2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145503G	大 塚 貴 子	5月1日～ 9月30日	30時間
スポーツ実践 A	長澤靖夫外	前	水 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145504E	尾 臺 美 彰	5月1日～ 9月30日	30時間
スポーツ実践 B	長澤靖夫外	前	金 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145510K	佐 藤 佳 樹	5月1日～ 9月30日	30時間
スポーツ実践 C	長澤靖夫外	前	火 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145505B	笠 岡 一 行	5月1日～ 9月30日	30時間
スポーツ実践 D	長澤靖夫外	前	木 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145513C	滝 澤 円	5月1日～ 9月30日	30時間
マリンスポーツ	清水富弘外	前	集中	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145505B	笠 岡 一 行	5月1日～ 9月30日	30時間
コミュニケーション英語 C I	野地美幸	前	月 2	教科・領域教育専攻 言語系コース(英語)	145326B	高 橋 栄 作	5月1日～ 9月30日	30時間
表現相互行為教育 演習	加藤泰樹外	前	火 1	教科・領域教育専攻 生活健康系コース(保健体育)	145512F	高 橋 浩 二	5月1日～ 9月30日	4時間

授業科目名	担当教官	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名 (修士課程)				
				専攻・コース	学籍番号	氏 名	任用期間	任用時間数
音楽	山本茂夫外	通年	木 3	教科・領域教育専攻 芸術系コース (音楽)	145451L	曾 田 容 子	5月1日～ 3月31日	16時間
				教科・領域教育専攻 芸術系コース (音楽)	145453G	折 居 はるか	5月1日～ 3月31日	14時間
図画工作A	洞谷亜里佐外	前	金 3	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145469B	笠 川 真由美	5月1日～ 9月30日	26時間
図画工作B	洞谷亜里佐外	前	木 1	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145469B	笠 川 真由美	5月1日～ 9月30日	26時間
図画工作C	洞谷亜里佐外	前	火 3	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145466J	上 野 典 子	5月1日～ 9月30日	26時間
図画工作D	洞谷亜里佐外	前	金 5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145466J	上 野 典 子	5月1日～ 9月30日	26時間
算数科指導法A・B	布川和彦外	前	木 2	教科・領域教育専攻 自然系コース (数学)	155405M	福 島 聡 子	5月1日～ 9月30日	15時間
算数科指導法C・D	布川和彦外	前	火 2	教科・領域教育専攻 自然系コース (数学)	155407H	山 岸 麻里子	5月1日～ 9月30日	15時間
初等家庭科指導法 A・D	得丸定子	前	火 1	教科・領域教育専攻 生活健康系コース (家庭)	145529L	鹿 沼 慶 子	5月1日～ 9月30日	14時間
初等家庭科指導法 B・C	得丸定子	前	火 2	教科・領域教育専攻 生活健康系コース (家庭)	155522H	川 島 名美子	5月1日～ 9月30日	14時間
国際交流体験演習	田島弘司	前	木 5	学校教育専攻 学習臨床コース	155041A	堀 井 梢	5月1日～ 9月30日	30時間
心理学実験	中山勘次郎外	前	木 3～4	学校教育専攻 発達臨床コース (心理臨床)	145134M	大 道 正 敬	5月1日～ 9月30日	30時間
造型基礎B・D	西村俊夫外	前	月 4	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145471E	小 坂 寛 子	5月1日～ 9月30日	30時間
国際交流セミナー	田島弘司	後	木 2	学校教育専攻 学習臨床コース	155041A	堀 井 梢	10月1日～ 3月31日	30時間
表現・状況的教育 方法演習	高石次郎	後	水 1	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	155458A	伊 藤 勇 夫	10月1日～ 3月31日	40時間
表現・状況的教育 方法演習	小川昌文	後	水 1	教科・領域教育専攻 芸術系コース (音楽)	155455H	星 奈津美	10月1日～ 3月31日	40時間
スノースポーツ	市川真澄外	後	集中	教科・領域教育専攻 生活健康系コース (保健体育)	145504E	尾 臺 美 彰	10月1日～ 3月31日	30時間
コミュニケーション 英語AⅡ	野地美幸	後	木 2	教科・領域教育専攻 言語系コース (英語)	145321A	市 川 桃 子	10月1日～ 3月31日	30時間
保育・音楽表現の 指導法	大山美和子	後	火 3	幼児教育専攻	155201F	谷 鹿 里 菜	10月1日～ 3月31日	30時間
保育・造形表現の 指導法	松本健義	後	火 2	学校教育専攻 学習臨床コース	155004H	稲 嶺 史	10月1日～ 3月31日	30時間
書写書道Ⅰ	押木秀樹	後	月 2	教科・領域教育専攻 言語系コース (国語)	155303J	岡 山 佳 代	10月1日～ 3月31日	30時間
計算機数学演習	中川 仁	後	木 4	教科・領域教育専攻 自然系コース (数学)	145404J	土 屋 信 治	10月1日～ 3月31日	30時間
英語コミュニケーション メディア英語	若山真幸	後期	月 3	教科・領域教育専攻 言語系コース (英語)	155318H	河 内 健 志	1月26日～ 3月31日	10時間
野外運動Aスキー	清水富弘外	後期	集中	教科・領域教育専攻 生活健康系コース (保健体育)	145505B	笠 岡 一 行	1月26日～ 3月31日	30時間
彫塑表現Ⅰ	岡 充夫	後期	木 5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145470G	古 部 寛	1月26日～ 3月31日	10時間
総合造形表現	西村俊夫外	後期	月 5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145471E	小 坂 寛 子	1月26日～ 3月31日	10時間
伝統絵画表現と鑑賞	増谷直樹外	後期	火 5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145471E	小 坂 寛 子	1月26日～ 3月31日	10時間

授業科目名	担当教官	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名 (修士課程)				
				専攻・コース	学籍番号	氏 名	任用期間	任用時間数
工芸表現B	高石次郎	通年	木 5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145469B	笠 川 真由美	1月26日～ 3月31日	10時間
絵画表現C	洞谷亜里佐外	後期	火 4	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145471E	小 坂 寛 子	1月26日～ 3月31日	10時間
デザインワークⅡ	山ノ下堅一	後期	月 4・5	教科・領域教育専攻 芸術系コース (美術)	145475H	常 光 由香里	1月26日～ 3月31日	10時間

授業科目名	担当教官	学期	曜日 時限	ティーチング・アシスタント名 (博士課程)				
				専攻・講座	学籍番号	氏 名	任用期間	任用時間数
生徒指導の 制度・経営研 究セミナーⅠ	西 穰司	通年	火 1	学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座	D02102J	小 林 淳 一	6月1日～ 3月31日	69時間
生徒指導の 制度・経営研 究セミナーⅡ	西 穰司	通年	水 2	学校教育実践学専攻 学校教育方法連合講座	D02102J	小 林 淳 一	6月1日～ 3月31日	68時間
障害児実践学セ ミナーⅪ (感覚 障害補償応用論)	星名信昭	通年	金 5	学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座	D02201J	加 藤 哲 則	6月1日～ 3月31日	34時間
障害児心理・生理 検査法B	星名信昭	前期	金 3・4	学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座	D02201J	加 藤 哲 則	6月1日～ 9月30日	11時間
障害児研究法演習 B	星名信昭	後期	金 3・4	学校教育実践学専攻 学校教育臨床連合講座	D02201J	加 藤 哲 則	10月1日～ 3月31日	17時間
実践場面分析演習 Ⅰ「総合的学習」	二谷貞夫	前期	月 5	教科教育実践学専攻 社会系教育連合講座	D01401J	狩 野 聖 子	6月1日～ 9月30日	11時間
実践場面分析演習 Ⅱ「総合的学習」	二谷貞夫	後期	月 5	教科教育実践学専攻 社会系教育連合講座	D01401J	狩 野 聖 子	10月1日～ 3月31日	17時間
総合学習セミナー Ⅱ	二谷貞夫	通年	木 3	教科教育実践学専攻 社会系教育連合講座	D01401J	狩 野 聖 子	6月1日～ 3月31日	34時間
総合学習応用研究 セミナーⅠ	二谷貞夫	前期	木 3	教科教育実践学専攻 社会系教育連合講座	D01401J	狩 野 聖 子	6月1日～ 9月30日	21時間
木工芸研究	西村俊夫	前期	木 1・2	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座	D01601J	飯 田 史 帆	6月1日～ 9月30日	43時間
工芸表現A	西村俊夫	通年	木 4	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座	D01601J	飯 田 史 帆	6月1日～ 3月31日	68時間
メディアデザイン 研究	西村俊夫	後期	月 1・2	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座	D02603J	三 浦 忠 士	10月1日～ 3月31日	68時間
デザイン行為と意 味生成	西村俊夫	後期	火 4	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座	D02603J	三 浦 忠 士	10月1日～ 3月31日	34時間
造形表示A・B	西村俊夫	後期	火 3	教科教育実践学専攻 芸術系教育連合講座	D02603J	三 浦 忠 士	10月1日～ 3月31日	34時間
総合学習基礎研究 セミナーⅠ	山崎貞登	前期	木 3	教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	D02702J	磯 部 征 尊	6月1日～ 9月30日	21時間
総合学習基礎研究 セミナーⅡ	山崎貞登	後期	木 3	教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	D02702J	磯 部 征 尊	10月1日～ 3月31日	34時間
総合学習応用研究 セミナーⅠ	山崎貞登	前期	木 3	教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	D01701J	伊 藤 大 輔	6月1日～ 9月30日	21時間
総合学習応用研究 セミナーⅡ	山崎貞登	後期	木 3	教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	D01701J	伊 藤 大 輔	10月1日～ 3月31日	34時間
技術科教育教材開 発演習	山崎貞登	前期	金 2	教科教育実践学専攻 生活・健康系教育連合講座	D02702J	磯 部 征 尊	6月1日～ 9月30日	21時間

平成17年3月1日

教 員 各 位

教 育 支 援 課

平成17年度電子シラバス掲載データの登録・更新について(依頼)

平成17年度電子シラバスの掲載データについて、下記により登録・更新をお願いします。

記

1 データの登録・更新方法

- 学部及び大学院の各授業科目のシラバス(授業計画)及び大学院担当教員の研究テーマについて、各教員研究室のパソコンからWebブラウザ(Internet Explorer, Netscape等)を通して、掲載データの登録・更新を行います。
- 添付ファイルの「平成17年度電子シラバスのデータ登録・更新要領」及び「電子シラバスのデータ登録・更新方法」により行ってください。
- 変更がない場合も登録が必要です。下記期間中に登録・更新の作業を必ず行ってください。
- 登録・更新を行う電子シラバス登録サイトへは、パスワードの入力が必要となります。パスワードが不明の場合は、当課教務情報係(内線3274, 3278)にお問合せください。なお、ActiveCampusポータルサイトにおいて、電子シラバス登録サイトへのシングルサインオンの設定をしますと、次回以降はポータルサイトから電子シラバス登録サイトへはパスワード入力なしでログインできます。

2 登録・更新期間

平成17年3月1日(火)～3月31日(木)

3 学外への公開

大学公式ホームページ上で全科目を公開します。

電子シラバス登録サイトへ教務情報係(kyojyoho@juen.ac.jp)

上越教育大学年次報告書

—第19集：平成15年度版—

上越教育大学

④ フレンドシップ事業

フレンドシップ事業実行委員会は、教員養成学部における教職を志す学生の教員としての実践的指導力育成に資するため、学生が種々の体験活動を通じて、子ども達とふれあい、子どもの気持ちや行動を理解できるような機会を設けることを目的に設置されている。

ア 平成15年度実施事項

a 「体験学習」は、勤労・生産・自然・物づくり体験の乏しい1年生に対して、教職を目指す上での意義ある基礎的体験を必修として位置付けている。教育活動創造のベースとなる体験活動11コースを設定し、経験の不足を補完するとともに、個性の伸長、得意分野の育成という意味から、選択して履修させている。教官27名が共同で展開し、履修記録簿からは「体で学ぶことの大切さと自らの経験の乏しさ、教職を目指して大学生活の中で求めて学ぶ必要性」等が記述され、アンケート調査でも90%の学生が充実した授業として極めて高い評価を得ている。学習を通して、学習素材研究、教材化の手法も学んでいる。

b 「ボランティア体験」は、企画運営協議会に参加している関係機関との連携の上に、年間不定期で社会・学校教育活動にボランティアとして学生は参加し、子ども達の指導補助に当たりながら、触れ合いと子ども理解を進めてきた。地域に根ざした大学の礎として定着してきた。何よりも素顔の子ども達と触れ合うことで、その後の教育実習に積極性が出てきた、子ども達との接し方が変容してきたなど、多くの成果が報告されている。

また、多様な子ども達向けの活動を習得できること、時間を守る、子どもに親しみながらも注意すべき所はきちんと注意する、あいさつや言葉かけは大きい声でなど、社会性も培われ、学社連携の成果は極めて大きいものがある。年間延べ参加学生数：450名

c 「学びのひろば」は、上記a・bの経験を土台に、学生達自身が企画・準備・運営する触れ合い活動である。平成14年度より年2回のイベント型活動から、年間を通した活動を視野に入れた継続型の活動「学びクラブ」に展開した。大学での触れ合い活動はキャンパスで4回、妙高少年自然の家での2泊3日の活動（8月25～27日）を展開した。地元児童の申し込みは定員を大幅に上回り、地域の期待は年々高まっている。学生達の企画力と実践力は教員の指導の下、事業計画、細部計画、案内状の作成、名簿づくり、参加への通知など諸活動を通して、目を見張るほどに培われてきている。

・学びのひろば 学びクラブ 第1回6／14、第2回7／19(キッズのみ)、第3回10／5、第4回12／6 参加者各215名

・学びのひろば 学びクラブ 第2回(アドベンチャー、青空、サイエンス、クラフト)8／25～27 参加者138名

d 「シンポジウム」は、12月20日に学生達だけの討論会を開催した。学生のたて前ではなく本音で、一人ひとりの学生が自らの子ども達との関わりを通した具体的な事例に基づく意見交流がなされた。

イ 企画運営協議会

企画運営協議会は、新潟県教育庁上越教育事務所社会教育課長、独立行政法人国立少年自然の家国立妙高少年自然の家事業課長・主任専門職員、上越市教育委員会社会教育課長、新井市教育委員会社会教育施設長、妙高高原町教育委員会教育課主査、新潟県青少年赤十字上越地区指導者協議会長（国府小学校長）及び実行委員会で構成されている。

4月は年間計画、受け入れ事業の確認、人数調整、10月は参加学生の状況や成果についての意見交換、3

平成15年度は年度の総括と次年度への要望事項等の意見交換を主として展開してきた。

ウ 今後の課題

教員養成課程に子ども達と触れ合える場と機会が位置付けられることは、素晴らしいことであり、教職への確かな決意が生まれると共に、自己の課題が浮き彫りになる。今年度も、年間を通して、同じ子ども達との触れ合いが展開でき、より深い子ども理解につながった。

3年次は授業が多く、4年次は卒論・教員採用試験とあわただしいが、引き続き子ども達と関わっていくようにしたい。

また、引き続き子ども達と関わった学生達がそれを単なる経験に終わらせずに、経験と学問の統合を何処まで図っていけるかに今後の課題がある。

体験学習は1コースを増設し、11コースとなった。昨年同様まとまった時間が必要で、週のコマ内で展開することは容易でなく、土曜・日曜・夏休み等の集中で展開せざるを得ないのが現状である。

4年間を通じて、子ども達と関わる触れ合い活動とという学生の要望に対応するため、学びのひろばの更なる充実に取り組む。

⑤ 保育実習

保育実習専門部会は、保育士資格取得希望学生の教育実習に関する事項を審議するため、教育実習委員会の専門部会として設置されており、教育実習委員会委員及び幼児教育講座並びに障害児教育講座から選出された教授・助教授・講師の計5人で構成している。

専門部会は2回、実習先となる施設長との打合せ会を1回、開催した。

(4) 国際交流

① 国際交流委員会

国際交流委員会は、学術・文化の国際化に伴い、異文化に対する理解と関心を一層深めるために、主として国際交流の推進に関する基本的事項、研究者の国際交流に関する事項、大学等との国際交流協定に関する事項、学生の留学及び外国人留学生に関する事項、その他国際交流に関し、学長が必要と認めた事項を審議する委員会で、各部から選出された研究科担当を命じられた教授又は助教授各2人、日本語・日本事情担当専任教員の計11人の委員から組織されている。

平成15年度においては、国際交流委員会を10回、更に委員会内に設置した学生交流専門部会を7回、留学生専門部会を6回開催した。審議内容は以下のとおりである。

ア 大学間交流協定

アイオワ大学（アメリカ合衆国）：平成15年5月に「教育・研究に関する交流協定書」「学生交流に関する協定書」を更新し、新たに90日以内の「短期プログラムによる学生交流に関する同意書」に調印することとした。

イ 短期留学推進制度（派遣）

平成15年8月から平成16年7月まで、ブランドン大学（カナダ）へ本学4年生1人を、平成15年9月から平成16年8月まで哈爾濱師範大学に大学院2年生1人を派遣することとした。

ウ 短期留学推進制度（受入れ）

平成15年10月から平成16年9月まで、北京師範大学（中国）から特別聴講学生1人を受け入れることとした。

エ 外国人留学生の受入れ

国語(書写を含む。)

Japanese (including Calligraphy)

科目番号	1201	学期	前期	曜日・時限	集中・金・1／
標準履修学年	学部1年	単位	L2	履修方法	必修
専攻・コース			教室	講202, 講302	
科目区分	ブリッジ科目 ブリッジ科目 I				
担当教員	有澤 俊太郎・野村 眞木夫・下西 善三郎・高本 條治・押木 秀樹・中里 理子・渡部 洋一郎・小笠 裕二				
備考	オフィス・アワー(会議・出張時は除く)有澤 俊太郎(木15:30～16:30)・野村 眞木夫(火18:00～19:00)・下西 善三郎(金12:00～13:30)・高本 條治・小笠 裕二・押木 秀樹(火18:00～19:00)・中里 理子(火10:20～11:50)・渡部 洋一郎(月10:20～11:50, 木14:40～16:10)				
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

国語学・国文学・書写書道・国語科教育学に領域を分割し、各領域で想定される問題点の確認と一定の能力の習得を目的とする。国語学では、語彙・文法・解釈・文章・談話に関し具体的な現象を理解させる。国文学では、古典・近代文学作品を読解するための基礎的な方法と歴史・社会的な事象との関連性の理解を求める。国語科教育では、文学教育の理論と実践、子供の実態をふまえた授業のありかたについて問題意識を呼び起こし、国語のコミュニケーション能力を再認識させる。書写は、書写の基礎知識(筆順・字形など)を踏まえるとともに、日常生活のための書字能力の向上を中心とした学習/指導方法を提示する。

履修条件・注意事項

- ・クラスA・Bに属する学生は、授業開始日に<講302教室>に集合すること。
- ・クラスC・Dに属する学生は、授業開始日に<講202教室>に集合すること。
- ・集中講義として、ABクラス：8/8(月)・CDクラス：8/9(火)の1～3限、講202で実施する。

授業計画・内容

- 1: 日本語の語彙、特に類意表現の意味記述を中心に
- 2: 言語表現の解釈可能性と解釈優先度およびその記録形式
- 3: 日本語の文章のしくみ 一段落・文段のまとまりに着目して
- 4: 古典の本文(写本、版本、異本のことなど)および万葉仮名、変体仮名について
- 5: 古典から近代文学へ(芥川、漱石と古典文学)
- 6: 近代文学の主題と表現について
- 7: 国語科教育の現状の把握、高等学校の国語科教育との関連を中心に
- 8: 文学的文章教材の分析とその指導
- 9: 教師の意識と授業の展開
- 10: 書写の内容を考える 一書き初めのための書写ではないはず
- 11: 書写の授業を考える 一個性を生かしつつ日常生活に
- 12: 書写のための基礎知識 一筆順、字形と字体・書体
- 13: ひらがなの形と筆使い(実技を含む)
- 14: 楷書の基本点画と字形の基礎(実技を含む)
- 15: 楷書の字形(単体・部分からなる字)(実技を含む)

成績評価の方法

担当者ごとに指示する。
部活動等で欠席する場合は、顧問教員等の捺印がある書面を提出すること。

教科書・参考書

教室で指示する。

実践場面分析演習 I「学習臨床」

科目番号	5005	学期	通年	曜日・時限	金・4／金・4
標準履修学年	大学院	単位	S2	履修方法	選択
専攻・コース			教室	人607・講201・プレゼンテーション室	
科目区分	共通科目 実践場面分析演習 学校教育専攻 学習臨床コース				
担当教員	増井 三夫・小林 恵・和井田 清司・西川 純・朝倉 啓爾・松本 修・松本 健義・中村 光一・布川 和彦・中野 靖夫・南部 昌敏・井上 久祥・石川 真・高野 浩志・大悟法 滋・川村 知行・濁川 明男・藤岡 達也・北條 礼子・田島 弘司・山崎 貞登・角谷 詩織・小林 毅夫・釜田 聡				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

授業概要・目標

教育実践場面にかかわる資料にもとづき、関係全教官による個々の分析と統合的な演習を行なう。
院生は教育実践に関する理論的枠組みや研究方法への理解を深めることになる。

履修条件・注意事項

特になし。

授業計画・内容

※具体的なテーマおよび展開方法については、履修者のニーズを勘案して決定する。
一事例として「学級崩壊の診断と対策」のテーマをあげるならば、次のような展開が考えられる。

- (1) 学級崩壊の背景分析と課題
 - 1 各種調査が教えるもの
 - 2 「学級崩壊」とは何か
 - 3 「小・プロブレム」
 - 4 低学年児の問題状況
 - 5 親の意識の変化
 - 6 地域社会の変化
 - 7 閉塞的な学校の状況
 - 8 学級担任教師の資質
- (2) 学級崩壊の診断と対策
 - 9 子ども理解と問題把握
 - 10 学級集団不成立の状況と対応
 - 11 人間関係の崩れと対応
 - 12 無秩序状態の学級とその対応
 - 13 学級崩壊と新カリキュラム
 - 14 全校支援体制による指導の確立
 - 15 今後の対応と課題

原則として月の第二、第四週の金曜日に行う。

具体的には、以下の通りである。

4月22日、5月13日、5月27日、6月10日、6月24日、7月8日、7月22日、
10月14日、10月28日、11月11日、11月25日、12月9日、1月13日、
1月27日、2月15日（試験週間）の15回である。

ただし、実際の運用に関しては、セミナー担当教員に確認すること。

成績評価の方法

演習の参加状況とレポートによる。

教科書・参考書

特になし。

● 研究プロジェクト・セミナー

科目番号	5955	学期	前期	曜日・時限	水・3, 集中／
標準履修学年	大学院	単位	S2	履修方法	選択
専攻・コース			教室	講201	
科目区分	研究プロジェクト				
担当教員	研究プロジェクト担当				
備考	平成17年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

● 授業概要・目標

本学では、教育実践研究を推進していくために、研究プロジェクト推進機構を置き、個人研究と共同研究との有機的な結合によって大学の研究能力をより有効に発揮させ、その成果を教育に還元することを目的にした。それが研究プロジェクトに関する科目であり、本セミナーである。

そのねらいは多様な研究方法と研究体系を学び、教育実践研究の推進を視座に入れた個々の修士論文研究に資するためである。

平成17年度は、6の研究プロジェクトの基本概念や研究手法を紹介・解説等すると共に、教員が提案するテーマについて討論等し、まとめることを目標にする。

● 履修条件・注意事項

1～6回は各の研究プロジェクトのガイダンス

7～15回は研究プロジェクト毎に日程・会場を設定する。

● 授業計画・内容

- 1回 4月20日 オリエンテーション
「地域教育実践の事例的研究～地域教育実践の知的遺産に学ぶ～」和井田清司
- 2回 5月11日 「小学校英語教育への教材・教具の活用」石濱博之
- 3回 5月18日 「心豊かに生きる子どもをはぐくむ新しい教育課程の開発」附属小学校
- 4回 6月1日 「特色ある学校づくり現場のフィールドワーク」藤田武志
- 5回 6月8日 「『教室を拠点とした』協同的数学教材開発方法論の構築：『数学の面白さ』に焦点をあてて」岩崎浩
- 6回 6月15日 「地域を主題とした環境教育、科学・技術・社会 相互関連（STS）教育の意義と展開」藤岡達也

7～15回

◎研究テーマ・授業実施担当者

「地域教育実践の事例的研究～地域教育実践の知的遺産に学ぶ～」

和井田清司・小林毅夫・釜田聡・杉浦英樹

○研究内容

上越地区をはじめ新潟県内にはすぐれた教育実践の伝統がある。これらの教育的伝統を知の遺産として発掘・再評価し、今後の実践への示唆とすることが重要な課題である。本研究は、戦後地域に根ざした教育サークル「上越教師の会」の実践を中心にとりあげ、紹介・分析し、今後の糧とすることを目指している。

○キーワード

地域教育実践 上越教師の会 地域に根ざした教育

○実施計画

(1) 日時 7月23日（土）終日～24日（日）半日（午後）

(2) 場所 学校教育総合研究センター 平面活動室

(3) 内容

※以下の①②③を7/23に、④⑤を7/24の午後に予定しています。

①地域と教育の事例研究

→地域教育実践を研究しているM2の院生から、研究の概要を紹介してもらいます。

②上越教師の会にみる戦後教育実践史

→上越教師の会の実践史を、戦後教育の流れのなかに位置づけて分析します。

戦後教育の理解にも役立ちます。

③地域教育実践の諸問題（地域の教師（経験者）に報告してもらう）

→地域の教育実践に取り組んでこられた地域の先生方の実践を紹介してもらいます。

上越地域の教育実践のレベルの高さを実感できると思います。

- ④記念講演 江口武正・「上越教師の会」の実践から学ぶもの
→上越教育大学名誉教授の二谷貞夫先生に講演してもらいます。
- ⑤総括協議・レポート作成
→履修者の皆さんの感想や意見を交流するとともに、皆さんの研究テーマや問題関心に沿って意見交換をします。最後に簡単なレポートを作成してもらいます。
- (4) 事前にオリエンテーションを兼ねて、資料を配付します。
(6/22, 水, 13:00~13:25 和井田研究室 人文棟6階)

◎研究テーマ・授業実施担当者

「小学校英語教育への教材・教具の活用」

石濱博之

○研究内容

小学校英語活動ないし英語教育において必要とされる各種活動（例：ゲームや歌）に関わる教材・教具の役割を踏まえながら、具体的に教材・教具について概観する。具体的に、それらの開発・提供の仕方、およびその運用の仕方を学ぶ。小学校で教材・教具の活用をとおして、教育実践の支援についても言及する。

○キーワード

教材、教具、開発、教育支援

○実施計画

- 7回 学校英語教育（英語活動）における教材・教具の意義・役割
- 8回 小学校英語教育（英語活動）における教材・教具の分類
- 9回 具体的な教材・教具の紹介
- 10回 教材・教具の活動事例
- 11回 教材・教具の作成方法
- 12回 教材・教具の運用方法
- 13回 まとめ

以上を、8月5・6日に集中で行う

◎研究テーマ・授業実施担当者

「心豊かに生きる子どもをはぐくむ新しい教育課程の開発」

附属小学校教頭 上野宏・研究主任 泉豊・研究副主任 清水雅之

○研究内容

総合的な教育活動を中核に「心豊かに生きる子どもをはぐくむ教育課程の創造」というテーマを掲げ、研究に取り組んでいる。

昨年度は、「心豊かに生きる」ということを教師自身が問い直しながら、心豊かに生きる子どもの姿を支える「学力」を「関係力」として示した。今年度は、教育課程を編成するための視点を教科と学年の両方から探り、研究を深めている。

○キーワード

心豊かに生きる、教育課程、編成

○実施計画

期日 平成17年5月18日（水）説明会

平成17年9月 9日（金）

- | | |
|----------|-------------|
| 1 授業参観 | 9:10~12:20 |
| 2 講義 | 13:30~14:00 |
| 3 グループ協議 | 14:10~14:50 |
| 4 レポート作成 | 15:00~16:30 |

◎研究テーマ・授業実施担当者

「特色ある学校づくり現場のフィールドワーク」

藤田武志・安藤知子・荻原克男

○研究内容

魅力ある学校づくりが求められる現在、自律的で独創的な学校の取り組みにはどのようなものがあり、それはどう実現されたのか。本プロジェクトでは、特色のある取り組みの現場に実際に入り込んで探求します。

○キーワード

特色ある学校づくり、学校の自律性、魅力的な教育実践、自治体レベルの教育改革、フィールドワーク

○実施計画

特色ある学校づくり現場の見学会と、その振り返りの会の2つに参加してください。

(1) 特色ある学校づくり現場の見学会

次のA・Bのうち、いずれかの見学会に参加してください。具体的な日程については、最初の講義の中で紹介します。なお、現場までの交通費が必要になります。

A. 埼玉県志木市の中学校における取り組みの見学（6月上旬の土曜日1回・日帰り）

B. 東京都杉並区の中学校における取り組みの見学（6月中の水曜日1回・日帰り）

Aの詳細については次の文献を参照してください。

・小川正人「（教育委員会レポート）改革への挑戦―市民主体の市政づくりと子どもの学習支援を軸にした教育改革（上）」「同（中）」「同（下）」『悠』2002年11月号～2003年1月号連載

・『教育』2002年11月号「―特集：志木の教育改革―」

Bの詳細については次の文献を参照してください。

・藤原和博『世界でいちばん受けたい授業 足立十一中「よのなか」科』小学館、2001年。

・藤原和博・天野一哉『民間校長、中学改革に挑む』日本経済新聞社、2003年。

・藤原和博『公立校の逆襲 いい学校を作る！』朝日新聞社、2004年。

(2) 振り返りの会

見学会での体験を受講者全員で振り返り、共有しながら、自律的で独創的な取り組みのありかたについて考えます。振り返りは、7月上旬の水曜日の3限（予定）に1回行います。

◎研究テーマ・授業実施担当者

「『教室を拠点とした』協同的数学教材開発方法論の構築：『数学の面白さ』に焦点をあてて
岩崎浩・森博・中川仁・高橋等・滝澤豊

○研究内容

教室を拠点としながら専門を異にする研究者と実践家が「数学の面白さ」に焦点をあて、現在の中学校数学の授業改善に直結する新しい教材を開発するとともに、専門を異にする研究者と実践家の間のコラボレーションのあり方を探求する。

○キーワード

数学の面白さ、教室研究、無理性、教材開発、コラボレーション

○実施計画

2日間の集中講義として実施する：

9月29日(木)

本プロジェクトの対象に焦点をあて、具体的な教材開発の実例を例として取り上げながら、特に、「教室」で起こった主要な場面を中心に、「数学の面白さ」とは一体何であるのか、専門を異にする研究者と実践家の間でどのような議論がなされたか、それが授業改善にどのように貢献するのか、また、それを具体的に実現するためにはどのようなことが大切なのかについて考える。

9月30日(金)

本プロジェクトの研究手法「協同的指導実践研究」に主に焦点をあて、この独自の教育実践研究の理念や具体的方法論について提案し、これについて議論する。特に、教材の本質を「教室で実現すること」を目指して展開される、専門をこととする研究者、実践家のコラボレーションのあり方に焦点をあてる。

◎研究テーマ・授業実施担当者

「地域を主題とした環境教育、科学・技術・社会 相互関連（STS）教育の意義と展開」

藤岡達也・小林辰至

○研究内容

体験学習・問題解決型学習を取り入れた教育内容・方法について地域をテーマとした環境教育・STS教育の実践を通じて追求する。

○キーワード

環境教育・科学技術・社会相互関連教育（STS教育）・地域連携

○実施計画

7回 現代の教育課題と総合的な学習の時間

8回 地球規模の環境問題と環境教育の国際的動向

9回 日本における環境教育の現状と課題

10回 科学・技術・社会相互関連（STS）教育とは

11回 自然災害教材開発の観点

12回 資源・エネルギー教材開発の観点

13回 河川教材開発の観点

14回 学校と博物館・水族館・NPO等との連携

15回 地域におけるパートナーシップの構築

●成績評価の方法

15回の授業を総合的に判定する

●教科書・参考書

平成17年度学部及び大学院学生の履修指導体制

(平成17年4月22日)
第1回教務委員会

1 履修指導の体制

本学の学則及び履修規程その他関係諸規則に基づき、クラス担当教員、専門セミナー担当教員、論文指導教員、教務委員会及び事務局（教育支援課）が連携を取りながら履修指導を行う。

具体的には、個々の学生毎に指導する。

2 履修指導の流れ

時 期	学 部 学 生	大学院学生（長期履修制度学生、免許プログラム受講生含む。）
4月以降	学部在校生（2・3・4年次）及び大学院在校生（2年次） ・「履修登録」及び「学業成績通知書」等の資料配付	
4月11～12日 以降	新入生オリエンテーション ・「履修の手引」及び「履修登録」等に基づく履修指導 ----- クラス担当教員、論文指導教員、教育支援課等による履修（教員免許）指導	
4月13日	授業開始	
4月28日	専修・コース（分野）の希望調査票の提出（1年次）	免許取得希望届（免プロ1年次）
5月2日正午	卒業研究題目届の提出（4年次）	学位論文題目届の提出（修了年次）
5月13日	履修登録締切（教育支援課）	
5月18日	履修申告一覧表の配付（履修登録の確認）	
5月31日	授業担当教員への受講者名簿の配付	
5～6月	卒業（修了）仮判定及び免許単位仮判定（学部4年次、大学院修了年次）	
5月31日正午		学位論文題目変更届の提出（留年次）
6月中旬	専修・コース（分野）の希望結果の公表（1年次）	
8月1日正午	卒業論文の提出（留年4年次）	学位論文の提出（留年次）
7月27日 ～8月2日	前期期末試験 （成績報告書提出期限：8月31日）	
10月下旬	第1回専修・コース説明会・予備調査（1年次）	
10月31日正午	卒業研究題目変更届の提出（4年次）	学位論文題目変更届の提出（修了年次）
11月下旬	専修・コース（分野）の予備調査結果の公表（1年次）	
1月10日正午		学位論文の提出（修了年次）
1月31日正午	卒業論文の提出（4年次）	
1月31日 ～2月3日	後期期末試験 （成績報告書提出期限：2月17日）	
2月上旬	第2回専修・コース説明会・本調査（1年次）	
	単位修得状況表の作成	
3月上旬	専修・コース（分野）の所属発表（1年次）	
3月中旬	在校生の単位修得状況 （教務委員会による状況確認・指導方法） ・1年次終了時までに20単位以上の修得（2年次進級基準） ・3年次終了時までに90単位以上の修得（4年次進級基準） ・教育実習の履修資格等	
3月下旬 ～4月中旬	単位修得不備者に対する直接指導 ・クラス担当教員、論文指導教員、教務委員会及び教育支援課による指導 ・教育実習委員会（教育実習の履修資格に関して）による指導	

注) (1) 保育士養成選考は、専修・コース（分野）分けと同様である。

(2) この他に随時、教育支援課窓口において履修指導を行う。



学習臨床学特論

Learning Support

科目番号	5001	学期	前期	曜日・時限	木・4／
標準履修学年	大学院	単位	L1・S1	履修方法	選択
専攻・コース			教室	講302・講103・講202・人204・体205	
科目区分	共通科目 子どもの学びに関する科目				
担当教員	朝倉 啓爾・松本 健義・松本 修・中村 光一・布川 和彦・非常勤講師 西野 範夫				
備考	平成16年度以降入学者				
履修条件	平成12年度以降入学者				

●授業概要・目標

子どもの論理による学習過程の実際の姿に基づきこれを支援することによって、子どもが自ら学び、生きる力を育てる教育実践研究の基盤となる授業科目である。子どもの学びの場面・過程に関わるあらゆる問題、すなわち、子どもの個々の論理による学びの成り立ちの要件とその過程、さらにそれに関わる内容（教材）や教師の支援（学習臨床カウンセリング）、評価の在り方などについて、子どもの学びの過程の事例分析演習をまじえ、総合的に研究する。

●履修条件・注意事項

平成16年度以降入学者

通常時間の講義と集中講義により全15回を行います。

下記の授業日時を確認し、あらかじめご予約の上、履修してください。

●授業計画・内容

- 第 1 回 オリエンテーション 子どもの学びの臨床的過程と教育実践（4月14日：講202教室）
- 第 2～5回 子どもの学びの実践過程と学習臨床学
（西野範夫集中講義：5月11日13時～18時、5月12日4限、備考4月21、28日は振替休講）
- 第6～12回 子どもの学びの実践過程の臨床的演習（5月19日～6月30日：7月7日は予備日）
〔小グループA～E演習クラス：5月19日～7月7日〕
- A. 学びの過程の臨床的把握と支援1：生きること・表すこと・学ぶこと：総合教科活動、図工・美術、幼児の遊び、他（松本健義：講202教室）
- B. 同 2：算数科の学び（布川和彦：人204）
- C. 同 3：国語科の学び（松本 修：講302）
- D. 同 4：社会科の学び（朝倉啓爾：体205）
- E. 同 5：算数・数学の学び（中村光一：講103）
- 5教室に分かれ、子どもの学びを実践過程で実際にとらえ支える在り方について、小グループでの事例分析を行い、発表とディスカッションによる演習を行います。
- 演習教室のグループ分けは、オリエンテーション後の受講生の希望によります。
- 希望人数により教室変更もあります。
- 第13～15回 子どもの学びの実践過程に対応する教育実践の臨床的研究の在り方
（西野範夫集中講義：7月13日13時～18時、7月14日4限：本講義最終回です）

●成績評価の方法

出席、講義内での小レポート、演習報告により評価します。

●教科書・参考書

配布資料等によります。

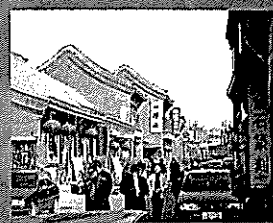
Joetsu University of Education

Social Studies

graduate school of education

国立大学法人
上越教育大学大学院

社会系 コース 案内



中
国
街
店
松
坂



社会系コースでは、教育内容にかかわる地理学、歴史学、法律学、
経済学、倫理学、宗教学などの専門社会諸科学、その教授にかかわって
社会科教育学を広く深く研究する体制となっています。

上越教育大学大学院は東日本唯一の教育系新構想の大学院であり、全国からの現職派遣の院生と
現役の院生が一緒になって研究するユニークな大学院です。

各自の問題意識から研究テーマを設定し、学位論文としてまとめていきます。

その研究成果は幅広く、専門社会諸科学の研究分野や、日本社会科教育学会をはじめとする
社会科教育にかかわる様々な学会での活躍もみられます。さらに国際理解教育、
環境教育、情報教育、総合的な学習に関する
研究といった社会科教育との境界領域の研究も徐々に増えています。

社会系教育講座ホームページ。 <http://www.juen.ac.jp/shakai/index.html>

修了生から

寺田善男(昭和62年度修了) 新潟県公立小学校学校長

教育実践の中で感じた「必要感」に基づく「学び」は、学びを一層真剣なものにし、自分自身を高めることに直結します。当時、私の問題意識の一つに「地域」論がありました。社会科教育としての「地域」の概念があっても良いのではないかと素朴な疑問でした。社会科教育研究の中で、また地理学での地域調査を通して、「地域」について学んだことは、その後の社会科教育実践を行う上での大きな力になったものと思います。時間と場、指導者、更には「上越」という地域環境がそろえるのです。多くの教職員が、上越での2か年の研修を希望されることを願っています。

岡田敏樹(平成6年度修了) 神奈川県公立高等学校教諭

上越での2年間で何をなすべきか、私が考えたのは、社会科教育をめぐる諸問題への自分なりの「腑分け」を確認したい、さらに社会系の学問に関わる自分なりの研究をしたい、の二点でした。しかも、この二つの課題を別々にではなく、一つのテーマとして取り組みたいというのが願いでした。日夜足りない頭をひねったあげく、社会科教科書の歴史的研究とでもいうべき、自分のテーマに行き着きました。現場に戻ってからも続けられる研究にしよう、そのためには論文の「引き出し」を豊かにしようと努めました。贅沢な課題を自分自身に課した2年間は、大変充実した日々であり、これからも上越で基礎固めをした「引き出し」を豊かにしつつ、牛のごとき歩みを続けたいと思います。

田村直子(平成10年度修了) 秋田県公立小学校教諭

私は小学生の地理的外国認識の実態をテーマに据え、オリジナリティを出すべく描画分析の手法を採用し、数千枚の絵と向き合いました。絵から表出してくる子どもの外国像をどう解釈し処理すべきか暗中模索の日々でしたが、低学年段階からの地理教育の可能性をつかんだように思います。院生生活、現場で薄く延ばされたようになっていた自分が、剥かれ、叩かれ、揺さぶられながら、社会科教師としての鋭さを養っていく自己改革の日々でした。今後も、その鋭さを保持していくために何が必要かを自分に問い続けていきたいと思っています。

猪又 力(平成13年度修了) 新潟県公立中学校教諭

学校現場とのギャップに戸惑い「自分崩し」からスタートした院生生活。深夜の院生室では、当時流行っていた「明日があるさ」の一節をだれかれとなく口ずさみながら、パソコンのキーボードを叩く音だけが、こだましていたことが今ではとても懐かしい。辛く険しい道のりの二年間ではあったが、この経験は何物にも代え難い大きな財産だ。大学院で学んだことがじわじわと漢方薬のように効いてきている。

最近の修了者の修士論文題目

- ・八ヶ岳西麓における農業水利空間
- ・大型店舗間における購買行動の変化
—上越地域を例に—
- ・上越市春日地区における都市的土地利用の拡大
- ・新潟県の行政区域にみられる境界問題
—とくに上越圏域について—
- ・海岸に漂着する廃棄物に関する空間的時系列的考察
- ・所謂「慶安の御触書」の史料的信憑性に関する一考察
—日本史教育への影響をふまえて—
- ・前田家金如鐵の自他認識に関する歴史的考察
—国境を越える歴史像を目指して—
- ・近代皇室婚姻儀礼の形成
- ・昭和初期の子ども漫画における戦争描写の分析
- ・中国におけるクロボトキン思想の受容に関する一考察
- ・日本企業の対中国輸出戦略に関する調査・研究
- ・日本企業の対中国直接投資に関する調査・研究
- ・教師は教室でソクラテスになり得るか
—高校における哲学教育の可能性について—
- ・現代社会における石見神楽の展開とその将来
- ・現代における教育の限界とその補助的機能に関する一考察
—“人格の再生化”(北海道家庭学校)の学校教育への応用をめぐって—
- ・小学校社会科における地域学習の改善に関する研究
—教科書と先行実践の分析をもとに—
- ・小学校社会科での日韓日朝関係史の学習に関する考察
- ・中学校社会科政治単元の授業改善に関する研究
—市町村合併問題を教材として—
- ・「地理的見方・考え方」に視座をおいた「都道府県」学習のあり方
- ・世界史教育における映画の活用に関する一考察
—南北戦争の教材化を通して—

●社会系コース関連開設科目

○専攻科目

●専門科目

自然地理学特論
人文地理学特論
地誌学特論
地域環境学特論
地域研究実験
日本史システム特論A
日本史システム特論B
外国史システム特論
倫理学特論
宗教学特論
法律学特論
政治学特論
経済学特論
社会学特論(休講中)
社会科教育特論A
社会科教育特論B
社会科教育特論C
地理歴史科教育論
公民科教育論

●専門セミナー

地理学研究セミナーⅠ
地理学研究セミナーⅡ
日本史システム研究セミナーⅠ
日本史システム研究セミナーⅡ
外国史システム研究セミナーⅠ
外国史システム研究セミナーⅡ
倫理学研究セミナーⅠ
倫理学研究セミナーⅡ
宗教学研究セミナーⅠ
宗教学研究セミナーⅡ
法律学研究セミナーⅠ
法律学研究セミナーⅡ
経済学研究セミナーⅠ
経済学研究セミナーⅡ
社会学研究セミナーⅠ(休講中)
社会学研究セミナーⅡ(休講中)
社会科教育研究セミナーⅠ
社会科教育研究セミナーⅡ

○共通科目

実践場面分析演習Ⅰ「社会」
実践場面分析演習Ⅱ「社会」
研究プロジェクト関連科目



掲示物を使いながら自分たちの考えを主張する子ども達と
真剣な眼差しで子ども達の様子を観察する参観者

を改めて実感したひと時でもあった。

3 一つの学びの場の共有へ

この公開授業は、上のような側面からみると大学内で研究されていることを実際の学校現場に生かそうとする試みの一つであったといえるのではないだろうか。国語教育の中では、ともすれば、研究と教育実践との距離の隔たりが危惧される指摘がなされることがあるが、このような取り組みを行うことによって本学では一つの壁を乗り越えている様子ははっきりとかがわれた。

また、大学院生である私達にとっても、このような取り組みに参加することは、私達の研究が大学内の研究だけではなく、実際の教育現場に根をはる研究であることを見失わないようにする大切な学びの場となっているように思う。

このように大学、地域が一つの学びの場を共有する姿こそがこれからの教育のあり方のモデルとなるのではないだろうか。

新任教官の紹介



学習臨床講座教授
藤岡 達也

略歴 1959年大阪府生まれ。1998年大阪府立大学大学院人間文化科学研究科修了。博士（学術）。公立高等学校教諭、大阪府教育センター指導主事を経て、2003年11月1日より現職。
研究業績概要 主な著書に『環境教育指導事典』（共著、国土社、1996）『環境教育への招待』（共

著、ミネルヴァ書房、2002）『科学技術の歩み—STSの諸問題とその起源—』（共著、建帛社、2000）『21世紀を展望する新教育課程への提案』（共著、日本学術協力財団、1996）『中学校理科教育実践講座』（共著、ニチブン、2003）などがある。

これからの方針 環境教育、科学教育、総合学習をこれまでどおり、自分の研究テーマとした。『総合的な学習の時間』に環境、国際理解、情報、福祉・健康が挙げられているが、これらはいずれも日本の教育において喫緊の課題である。環境教育との関連も踏まえ、国際比較も念頭におきながら、特に自然環境と人間活動の相

互関連に着目した教育研究を続けたい。環境教育については、日本の風土を踏まえ、児童生徒の成長の連続性からとらえた縦軸と、様々な教科や教育活動との関連性をとらえた横軸を基本として『環境教育学』を構築する。

小・中・高等学校等の教育現場、教育委員会や教育センター、国立教育政策研究所等とも連携をとり、これらを支援することによって、実践的研究を進める。また、欧米に比して日本ではなかなか進まない大学と地域社会、民間企業、NPO等とのパートナーシップの構築方法も研究し、広く提言できるように努めたい。

■修了生の研究動向■

幼児教育講座

- 平成12年12月 金山和彦 重症心身障害児の道形活動について一施設における陶芸指導の現状と課題からの考察— 『美術教育』第280号、46-54頁（平成5年度修了）
- 平成13年12月 金山和彦 伝統的プログラム：技法あそびの実践状況について（保育者への質問紙調査をもとに） 『新見公立短期大学研究紀要』第22巻、123-126頁（平成5年度修了）
- 平成14年12月 金山和彦 具体美術と児童美術の接点について 『新見公立短期大学研究紀要』第23巻、45-52頁（平成5年度修了）
- 平成15年1月 金山美和子 子どもの虐待防止に関する保育者の意識 『上田女子短期大学紀要』第26号、33-41頁（平成12年度修了）
- 平成15年3月 金山美和子 子育ての相互支援活動における現状と課題（1）—上田市における相互支援ネットワークの活動を中心に— 『上田女子短期大学児童文化研究所「所報」第25号、19-31頁（平成12年度修了）

- 平成15年5月 横山文樹 『保育内容としての遊びと指導』（共著）建帛社、37-57,97-104頁（平成4年度修了）
- 平成15年9月 横山文樹 幼児期の“健康”に関する考察—健康の“意味”と機能的遊びの関係— 『昭和女子大学初等教育学科紀要「学苑」』第754号、43-56頁（平成4年度修了）
- 平成15年12月 金山和彦 関西府衛美術集団と子どものアートについて 『美術教育』第285号、10-15頁（平成5年度修了）
- 平成16年1月 金山美和子 男性の育児を促進する子育て支援の検討—上田市における実践事例を通して— 『上田女子短期大学紀要』第27号、1-10頁（平成12年度修了）

言語系/国語

- 平成14年9月 清水静子 「ワークシートと「評価カード」を使った個への対応と『評価カード』の作成」 須田実樹『到達目標チェックで代る国語の指導4 中学校1年・2・3年』明治図書（平成12年度修了）
- 平成14年11月 清水静子 『生徒に伝える学習プランと評価』『国語科授業

- 方法研究』第8号（国語科授業方法研究会）（平成12年度修了）
- 平成15年2月 清水静子 『古典学習への興味・関心を高める工夫—「竹取物語」かくやめてどんな人？の指導と評価を通して—』上越教育大学国語教育学会『上越教育大学国語研究』（平成12年度修了）
- 平成15年3月 藤原裕治 『国語科教育における映像メディアの教育内容—メディア・リテラシーの視点から—』『国語科教育』第53集（平成9年度修了）

社会系

- 平成14年11月 坂本昇 『近代農村社会運動の断片』『歴史地理教育』646号（平成9年度修了）
- 平成15年8月 坂本昇 共著『マンガ天竺地を知らぬための近現代入門』いそが社（平成9年度修了）
- 平成15年11月 大谷いづみ 『いのちの教育』に惹かれてしまうこと—『疎麻死』宮説をめぐって— 『現代思想』2003年11月号（特集：争点としての生命）青土社（平成13年度修了）

■大学院入試情報■

平成17年度大学院学生募集の概要は、下記のとおりです。

専攻	入学定員	コース
学校教育専攻	120人	学習臨床コース 発達臨床コース 臨床心理学コース
幼児教育専攻	10人	
障害児教育専攻	30人	
教科・領域教育専攻	140人	言語系コース 社会系コース 自然系コース 芸術系コース 生活・健康系コース
合 計	300人	

（注）入学定員（300人）の3分の2程度は、初等中等教育における3年以上（平成17年4月1日現在による。）の教職経験を有する者をもって充てます。

- 入学定員を前期及び後期の2回に分けて募集します。前期及び後期それぞれの学生募集人員は、未定です。
- 出願期間
前期募集：平成16年7月26日から8月5日（予定）
後期募集：平成16年10月26日から11月4日（予定）
- 学力検査期日
前期募集：平成16年8月28日（予定）
後期募集：平成16年11月27日（予定）
- 大学院学生募集の詳細は、平成16年5月上旬発表予定の「平成17年度大学院修士課程学生募集要項」で確認してください。
- 大学院学生募集に関するお問い合わせは、本学入学試験係まで

電話 025-521-3293
E-mail: nyushi@juen.ac.jp

◆表紙◆

昨年3月に「上越教育大学学生表彰」を受けた保健体育コースM1の志村梓さんは、大学時代に第2回全日本学生剣道オープン大会女子二段の部で優勝しました。出身は長野県で、剣道歴は16年（現在三段）。大学院に進学した現在も部活動に積極的に参加し、撮影の時も部活動の休憩中でした。剣道は一生続け、将来は子どもたちに剣道の素晴らしさを伝えていきたいということでした。

国立大学法人上越教育大学学則（抜粋）**第7節 課程の修了及び学位の授与**

（課程の修了）

第79条 修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとする。

2 前項の学位論文には、専攻の種類に応じ、指導教員の許可を得て、研究演奏又は研究作品を加えることができる。

3 第1項に規定する修了の要件を満たした学生に対する修了の認定は、教授会の議を経て、学長が行う。

上越教育大学大学院学校教育研究科履修規程（抜粋）

（試験）

第9条 試験は、各授業科目の受講を終了した者について、学年末又は学期末に行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず、授業担当教員が必要と認めるときは、随時試験を行うことができる。

3 出席時数が単位修得に必要な授業時数の3分の2に達しない者は、原則として受験資格を失うものとする。

4 試験を実施する科目について試験を受けない場合は、単位は与えないものとする。

（追試験）

第10条 病気その他やむを得ない理由により試験を受けることができなかった者は、願い出によって追試験を受けることができる。

（成績の評価）

第11条 授業科目の試験の成績は、A、B、C及びDの4種の評語をもって表し、A、B及びCを合格とし、Dを不合格とする。

平成17年度入学者用履修の手引（大学院学校教育研究科）（抜粋）

4 課程の修了の要件

(1) 単位の授与

授業科目を履修し、当該科目の試験に合格した者に対しては、所定の単位を与えます。

(2) 成績評価及び試験

ア 成績評価は、履修登録をした科目について、授業担当教員が試験の結果及び受講状況等を総合して行います。

評 価	評価基準	適 用
A	100点～80点	合格
B	79点～70点	合格
C	69点～60点	合格
D	59点以下	不合格とし、単位を与えない。

イ 試験は、当該授業科目の授業が終了する学期末、又は学年末等に、授業担当教員が定める方法により行います。

ウ 合格した科目を再度受講することは原則としてできません。また、その場合単位の認定は行いません。

(3) 学位論文及び試験

ア 学位論文は、論文指導教員の研究指導を受けて作成し、当該論文ごとの審査委員会の審査を受けなければなりません。

イ 試験は、論文の審査に合格した者に対し、当該論文を中心とし、その関連分野について、口述により（他の試験方法を併用することがあります。）行います。

ウ 学位論文に関する手続等は、「上越教育大学学位規則」及び「上越教育大学学位論文取扱細則（抄）」（本手引に掲載）を参照してください。

(4) 課程の修了

修了の要件は、大学院に2年以上在学し、所定の30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び試験に合格することとなっています。

(5) 在学年限

学生は、3年を超えて在学することができません。ただし、休学期間は、在学年限に算入されません。

単位修得状況

学部

区 分			平成16年度	平成15年度	平成14年度	平成13年度	平成12年度
履修登録科目数			687	664	555	267	60
評価対象者数			15330	14393	12740	8161	3662
評価	A	人数	11580	10493	9076	5502	2373
		比率	75.5%	72.9%	71.2%	67.4%	64.8%
	B	人数	2580	2760	2489	1702	762
		比率	16.8%	19.2%	19.5%	20.9%	20.8%
	C	人数	901	976	1009	797	449
		比率	5.9%	6.8%	7.9%	9.8%	12.3%
	計 (単位修得率)	人数	15061	14229	12574	8001	3584
		比率	98.2%	98.9%	98.7%	98.0%	97.9%
	D	人数	269	164	166	160	78
		比率	1.8%	1.1%	1.3%	2.0%	2.1%

大学院

区 分			平成16年度	平成15年度	平成14年度	平成13年度	平成12年度
履修登録科目数			510	518	543	558	449
評価対象者数			4918	5304	5694	5334	4307
評価	A	人数	4696	5067	5413	5058	4093
		比率	95.5%	95.5%	95.1%	94.8%	95.0%
	B	人数	167	206	235	227	189
		比率	3.4%	3.9%	4.1%	4.3%	4.4%
	C	人数	42	23	41	41	22
		比率	0.9%	0.4%	0.7%	0.8%	0.5%
	計 (単位修得率)	人数	4905	5296	5689	5326	4304
		比率	99.7%	99.8%	99.9%	99.9%	99.9%
	D	人数	13	8	5	8	3
		比率	0.3%	0.2%	0.1%	0.1%	0.1%

※ 平成12年度以降入学生を対象としたものである。

※ 既修得単位認定は除く。

国立大学法人上越教育大学学則（抜粋）

（学位の授与）

第80条 大学院を修了した者には、修士（教育学）の学位を授与する。

2 学位の授与に関し必要な事項は、別に定める。

上越教育大学学位規則（抜粋）

（審査）

第5条 研究科長は、論文を受理したときは、論文ごとの審査委員会及び専攻・コースごとの試験委員会を設置し、それぞれ当該論文の審査及び試験を行うものとする。

2 審査委員会は、研究指導を担当する教授又は助教授のうちから主査1人及び研究科担当を命じられた教員（助手を除く。以下同じ。）のうちから副査2人以上をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

3 試験委員会は、研究科担当を命じられた教員のうちから若干人をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

（試験）

第6条 試験は、論文の審査に合格した者に対し、当該論文を中心とし、その関連分野について、口述により行うものとする。ただし、教授会が必要と認めたときは、他の試験方法を併用することができる。

（審査結果の報告）

第7条 審査委員会及び試験委員会は、それぞれ当該論文の審査及び試験の結果を教授会に報告するものとする。

（総合審査）

第8条 教授会は、論文の審査及び試験の結果に基づき、当該論文の合否判定を行うものとする。

（教授会の審議）

第9条 教授会は、前条の審査結果に基づき、課程の修了及び学位の授与の可否を審議決定し、その結果を学長に報告するものとする。

2 前項の議決は、教授会の構成員（公務出張を命じられた者及び休職中の者を除く。）の3分の2以上の者が出席し、その3分の2以上の賛成を要するものとする。

（学位の授与）

第10条 学長は、前条第1項の報告に基づき、課程の修了及び学位の授与を認定するものとする。

2 学則第80条第1項に規定する学位の授与は、前項の規定により学位の授与を認定された者に対し、学長が別記第2号様式の学位記を交付して行う。

上越教育大学大学院学校教育研究科学位論文審査の取扱いについて

平成17年10月26日
第29回教授会承認

上越教育大学学位規則（平成16年規則第17号。以下「学位規則」という。）第5条及び第6条の規定に基づく論文ごとの審査委員会及び専攻・コースごとの試験委員の設置及び試験並びに上越教育大学学位論文取扱細則（平成16年細則第19号。以下「学位論文取扱細則」という。）第2条の規定に基づく学位論文題目は、次のとおり取り扱うものとする。

1 審査委員会及び試験委員会について

- (1) 学位規則第5条に規定する審査委員会及び試験委員会については、学位論文を受理した後、設置及び委員の委嘱（以下「設置等」という。）を行うものとする。この場合、事前準備として、各審査委員会及び試験委員会の設置等については、学位論文の提出を前提としてあらかじめ教授会で審議する。
- (2) 審査委員会委員及び試験委員会委員の候補者については、各専攻・コースから推薦する。なお、審査委員会委員と試験委員会委員を兼ねても差し支えない。
- (3) 審査委員会委員及び試験委員会委員の任期は、教授会において当該論文の可否が判定された日までとする。
- (4) 試験委員会には、委員長を置き当該委員会委員のうちから互選により選出する。
- (5) 論文の審査方法及び試験方法は、学位規則に定めるもののほか、それぞれの審査委員会及び試験委員会に一任する。

2 学位規則第6条に規定する「試験」の解釈等について

- (1) 「試験」とは、試験委員会におけるいわゆる「最終試験」を意味するものであって、審査委員会における論文試験に伴う「口述試問」を意味するものではない。
- (2) 「論文の審査に合格した者」とは、審査委員会における口述試問を含んだ論文審査に合格した者をいう。
- (3) 「ただし、教授会が必要と認めたときは、他の試験方法を併用することができる。」は、主として実技を伴う分野における試験の方法を意味する。
- (4) 審査委員会における審査及び試験委員会における最終試験の日程については、必要に応じ、弾力的に実施して差し支えない。

3 学位論文題目について

学位論文取扱細則に規定する学位論文題目については、次のとおり取り扱うものとする。

- (1) 論文題目の届出は主題のみでも主題と副題の両者でもよいものとする。
- (2) 主題のみの届出の場合、論文提出の際に副題を付しても構わない。ただし、届出の主題と提出された論文の主題とは、必ず一致しなければならない。

付 記

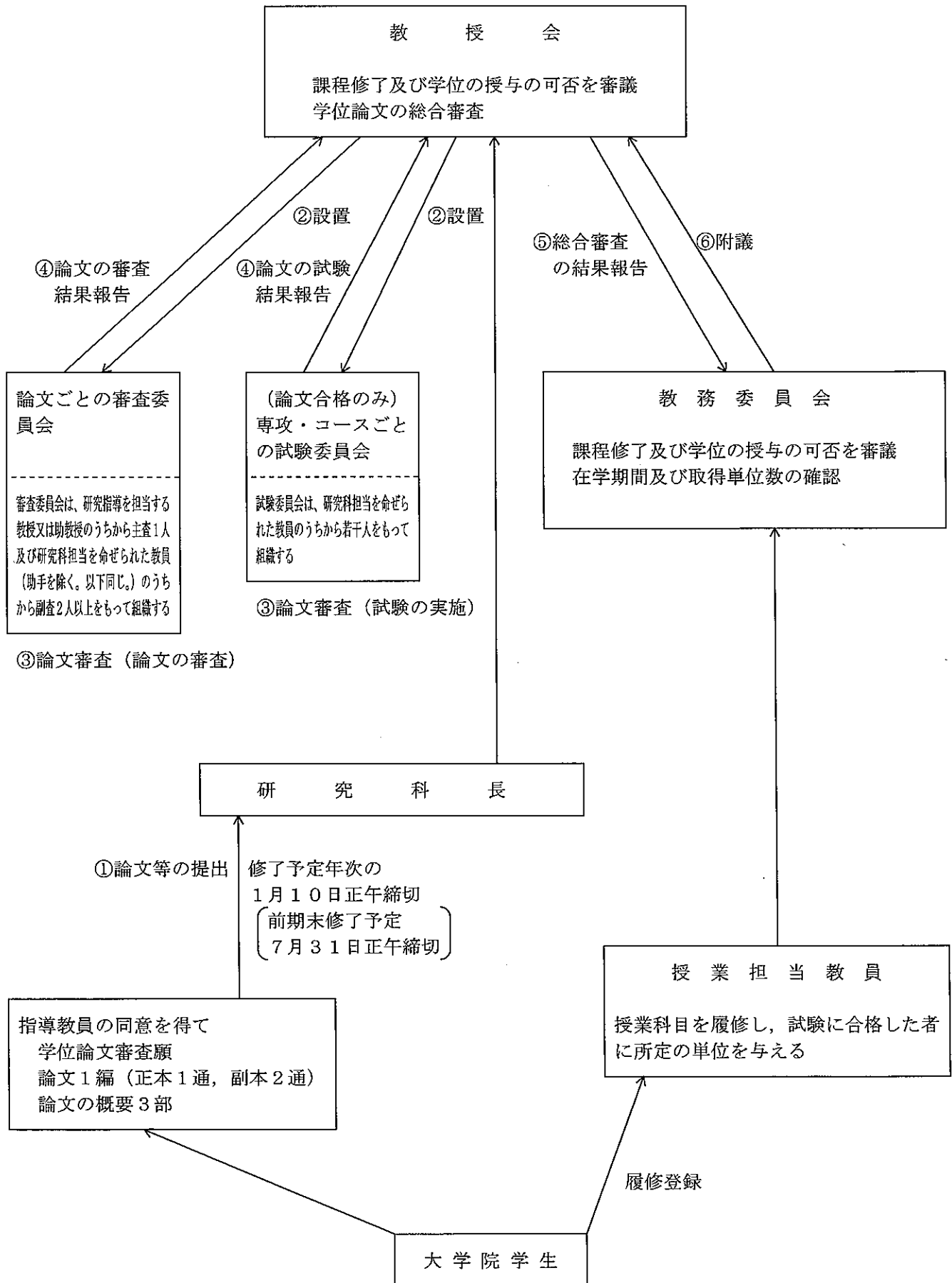
この取扱いは、平成17年10月26日から実施する。

(参 考)

学位論文に係る関係委員会の所掌等

担 当	時期等（修了予定年次）	主 な 業 務 内 容 等
教務委員会	9月30日正午まで ただし、修業年限を超える 場合は、4月30日正午まで ----- 注)平成17年度の場合：4月30日正午	・学位論文題目届の提出
	10月31日正午まで ただし、修業年限を超える 場合は、5月31日正午まで	・学位論文題目変更届の提出
	1月10日正午まで	・学位論文及び論文概要の提出 (学位論文審査願添付)
	(7月31日正午まで)	(修業年限を超える場合)
		・提出期限を過ぎて提出された学位論文の扱い
教授会 (審査委員会及び試験委員会)		・審査委員会及び試験委員会の設置 ・審査委員会及び試験委員会による審査及び試験の結果報告
		・可否の判定（総合審査）

上越教育大学大学院学校教育研究科学位論文の審査のイメージ図



注) 学位論文1部は本学附属図書館に保管する。

○ 上越教育大学学位規則 (抜粋)

(論文の提出)

第3条 大学院学生が学位論文(学則第79条第2項に規定する研究演奏及び研究作品を含む。以下「論文」という。)の審査を受けようとするときは、学位論文審査願に論文及び論文概要を添え、学校教育研究科長(以下「研究科長」という。)に提出しなければならない。

2 研究科長が受理した論文及び論文概要は、返還しない。

(論文及び資料)

第4条 論文は、1編に限る。ただし、参考論文を添付することができる。

2 研究科長は、審査のため必要があると認めるときは、作品、模型、標本等の資料を提出させることができる。

(審査)

第5条 研究科長は、論文を受理したときは、論文ごとの審査委員会及び専攻・コースごとの試験委員会を設置し、それぞれ当該論文の審査及び試験を行うものとする。

2 審査委員会は、研究指導を担当する教授又は助教授のうちから主査1人及び研究科担当を命じられた教員(助手を除く。以下同じ。)のうちから副査2人以上をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

3 試験委員会は、研究科担当を命じられた教員のうちから若干人をもって組織するものとし、その委員は、教授会の議を経て、研究科長が指名する。

(試験)

第6条 試験は、論文の審査に合格した者に対し、当該論文を中心とし、その関連分野について、口述により行うものとする。ただし、教授会が必要と認めたときは、他の試験方法を併用することができる。

(審査結果の報告)

第7条 審査委員会及び試験委員会は、それぞれ当該論文の審査及び試験の結果を教授会に報告するものとする。

(総合審査)

第8条 教授会は、論文の審査及び試験の結果に基づき、当該論文の可否判定を行うものとする。

(教授会の審議)

第9条 教授会は、前条の審査結果に基づき、課程の修了及び学位の授与の可否を審議決定し、その結果を学長に報告するものとする。

2 前項の議決は、教授会の構成員(公務出張を命じられた者及び休職中の者を除く。)の3分の2以上の者が出席し、その3分の2以上の賛成を要するものとする。

(学位の授与)

第10条 学長は、前条第1項の報告に基づき、課程の修了及び学位の授与を認定するものとする。

2 学則第80条第1項に規定する学位の授与は、前項の規定により学位の授与を認定された者に対し、学長が別記第2号様式の学位記を交付して行う。

○ 上越教育大学学位論文取扱細則 (抜粋)

(論文題目の提出)

- 第2条** 論文を提出しようとする者は、別記第1号様式の学位論文題目届を、修了予定年次の9月30日(その日が日曜日又は国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日に当たるときはその翌日、土曜日に当たるときはその翌々日。以下期日を規定した場合において同じ。)正午までに、指導教員の同意を得て、学務部教育支援課(以下「教育支援課」という。)に提出するものとする。ただし、修業年限を超えて在学する者に係る提出期限については、当該修了予定年次の4月30日正午までとする。
- 2 論文の題目を変更する場合は、別記第2号様式の学位論文題目変更届を、修了予定年次の10月31日正午までに、指導教員の同意を得て教育支援課に提出するものとする。ただし、修業年限を超えて在学する者に係る提出期限については、当該修了予定年次の5月31日正午までとする。

(論文の提出)

- 第3条** 論文は、別記第3号様式の学位論文審査願に論文1編(正本1通、副本2通)及び論文の概要3部を添え、修了予定年次の1月10日正午までに教育支援課で受け付けたものを、指導教員に提出するものとする。ただし、修業年限を超えて在学する者に係る論文の提出については、修業年限を超えて在学する年度の7月31日正午までとすることができる。
- 2 前項の提出期限を過ぎて提出された論文は、疾病又は事故等により特に学校教育研究科長が認めた場合を除き、受理しない。
- 3 論文用紙の規格等は、別記のとおりとする。

(論文の審査及び試験の結果報告)

- 第4条** 審査委員会及び試験委員会は、それぞれ、当該論文の審査結果を別記第4号様式の学位論文審査結果報告書により、試験結果を別記第5号様式の試験結果報告書により、教授会に提出するものとする。

番号140-3 平成16年度修士論文発表会についてのアンケート調査集計

専攻名	講座名	分野	実施の有無	公開の有無	プログラム	積極的公開	研究協議	備考
学校教育	学習臨床	教育方法臨床	実施	公開	作成		検討中	学習臨床は4分野
		学習課程臨床	実施	公開	作成		検討中	合同発表会
		情報教育	実施	公開	作成		検討中	
		総合学習	実施	公開	作成	○	検討中	総合学習研究会
学校教育	生徒指導総合	生徒指導総合	検討中				未検討	
	心理臨床	臨床心理学	実施	公開	作成		未検討	
		学校心理	実施	公開	作成		未検討	
幼児教育			実施	公開	作成		未検討	
障害児教育			実施	公開	作成	○	未検討	
教科・領域教育	言語系	国語	実施	公開	作成	○	検討中	国語教育学会
		英語	検討中				未検討	
	社会系		実施	公開	作成		未検討	
	自然系	数学	実施	公開	作成		未検討	
		理科	実施	公開	作成	○	未検討	
	芸術系	音楽	実施	公開	作成	○	未検討	演奏会
		美術	実施	公開	作成	○	検討中	作品展
	生活・健康系	保健体育	実施	公開	作成		検討中	
		技術	実施	公開	作成		未検討	
		家庭	実施	公開	作成	○	未検討	

* 講座、分野の分類は平成15年度入学対象にもとづく。